

平成 24 年度

教育委員会の事務の点検・評価報告書

平成 25 年 11 月

始良市教育委員会

# 目 次

I	教育委員会点検・評価制度の概要等について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	平成 24 年度教育委員会事務局の点検・評価について・・・・・・・・	2
	教育委員会事務局	
	(1) 教育総務課・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	(2) 学校教育課・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	(3) 社会教育課・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	(4) 図書館・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	(5) 保健体育課・・・・・・・・・・・・・・・・	5
III	教育委員の平成 24 年度点検・評価・意見・要望等について・・・・・・・・	6
IV	外部評価委員の平成 24 年度点検・評価・意見・要望等について・・・・・・・・	10
V	始良市教育委員会事務事業自己点検・評価シート・・・・・・・・別冊	
	<b>【資料】</b>	
	教育委員・外部評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則・・・・・・・・	14
	始良市教育委員会外部評価委員会規程・・・・・・・・・・・・・・・・	15

## I 教育委員会の点検・評価制度の概要等について

### 1 制度の概要について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部改正により、平成 20 年度からすべての教育委員会が、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を行い、その実施に当たっては、学識経験者の知見活用を図るものと規定された。

また、その結果については議会へ報告し、市民に対して公表することも規定されている。（以下「条文抜粋参照」）

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 始良市教育委員会の点検・評価の実施方針について

始良市教育委員会において、平成 24 年度に実施した事務事業の内容について、始良市の教育(教育行政要覧)の各課重点施策を基本に、評価項目を 45 の項目に分類する。事務事業自己点検・評価シートを作成し、教育委員会事務局内部で評価を実施した後、各教育委員の点検・評価を受け、その後、教育に関し学識経験を有する 5 名で組織する外部評価委員会を開催し、点検・評価実施後に、報告書を取りまとめる。9 月定例教育委員会での議決を経て、平成 25 年第 3 回定例会(9 月議会)へ提出する。

また、報告書は平成 25 年 10 月以降、始良市のホームページ等を活用して市民への公表を行うこととする。

### 3 評価点数結果及び各課の評価項目件数について(別紙 V 市教育委員会事務事業自己点検・評価シート参照)

47 評価項目の合計評価点数は 4.2 点、合併して 3 年が経過したことから、課題もある程度整理でき、事業目的の共有化が図られ、目標を概ね達成することができた。

評価項目は、教育総務課 9 項目 学校教育課 12 項目 社会教育課 13 項目 図書館事務 4 項目 保健体育課 9 項目で、合計 47 項目である。

#### 4 評価点数の方法について

評価点数は 5 段階評価とし、以下のとおりとする。

評価	評価の基準等	目標等達成の目安
5	目標を十分に達成し、期待以上の成果が得られた。	8 割～10 割
4	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	6 割～8 割
3	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	4 割～6 割
2	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	2 割～4 割
1	目標をほとんど達成できず、成果がなかった。	0 割～2 割

#### 5 平成 25 年度(平成 24 年度分)点検・評価の経過等について

- ・ 5 月 15 日 教育委員会内部自己点検・評価シート作成を各課に依頼
- ・ 6 月 5 日 事務局自己点検・評価シートの作成
- ・ 6 月 10 日 事務局自己点検・評価シートのまとめ
- ・ 6 月 12 日 各教育委員へ事務局自己点検・評価シートの配布
- ・ 6 月 25 日 各教育委員、事務局へ自己点検・評価シートの提出
- ・ 7 月 10 日 事務局自己点検・評価シートのまとめ
- ・ 7 月 23 日 第 1 回外部評価委員会  
(委嘱状の交付、会長選出、外部評価委員へ自己点検・評価の依頼)
- ・ 8 月 27 日 第 2 回外部評価委員会  
(外部評価委員の自己点検・評価の報告)
- ・ 8 月 31 日 自己点検・評価報告書の作成
- ・ 9 月 9 日 定例教育委員会に自己点検・評価結果報告書の議案提出
- ・ 9 月 25 日 市議会第 3 回定例会へ自己点検・評価結果報告書の提出
- ・ 10 月以降 市民への公表

## II 平成 24 年度教育委員会事務局の点検・評価について

### 1 教育総務課

教育委員会の活性化の推進 5 項目の平均点は 4.6 点の評価。定例教育委

員会等での議案審議では活発な議案質疑がなされた。

また、県・地区・市主催の研修会、学校訪問をはじめとした市主催各種行事に積極的に参加し、定例教育委員会でその結果の発表がなされた。このことにより情報の共有化が進み、委員会の活性化に繋がったと評価できる。

事務局との連携では、事前資料配布も徹底され、その時々でスムーズな連携が図られた。

**事業に係る4評価項目の平均点は4.3点の評価。**主に安全・安心な学校づくりと教育施設整備の充実においては、限りある予算内で、効率的に維持・補修がなされてきた。

松原なぎさ小学校の建設については、設計業務委託を行い、「建設検討委員会」を設置し、市民の意見も取り入れ、検討を加えながら設計が完成した。

#### ・各事業の主な成果と課題

- (1) 職員研修は38名が受講、各種健康診断は149名が受診した。
- (2) 学校事務職員研修を18回実施し、財務事務の円滑な執行に努めた。
- (3) 施設・設備整備は、帖佐小トイレ増築工事、蒲生小外壁補修、重富中弓道場建て替え、加治木中音楽室の空調設置等を行った。その他、緊急性のある各施設設備改修等の維持管理に努めた。
- (4) 松原なぎさ小学校建設については、地質調査を実施し、設計はプロポーザル方式で業者を選定し、建設検討委員会を小委員会も含め24回開催し、設計が完了した。平成27年4月の開校に向けて事業を着実に進めていく必要がある。

## 2 学校教育課

**10評価項目の平均点は4.3点の評価点。**『規範意識を養い豊かな心と健やかな体を育む教育の推進』『能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進』『児童生徒や保護者、地域に信頼される学校づくりの推進』の三つを重点施策に掲げ、その充実に努めた。

新たな事業としての「モラリティ・インクルーブメント推進事業」では、2校で実践報告を行い、大きな成果をあげることができた。

また、スクールソーシャルワーカーと家庭・関係機関との連携が密にとられ、不登校児童生徒は年々減少してきている。また、いじめについては、「いじめアンケート」を実施し把握できた全ての件について解消し、その後も状況を見届けている。

さらに、「始良っ子育て審議会」を年6回開催し、学校、家庭、地域、事業所、行政のそれぞれが果たすべき役割と責任、協働の取り組み等につい

て具体的提案がなされ、「始良市子育て基本条例」制定への基盤となった。

・各事業の主な成果と課題

- (1) 「モラリティ・インクルーブメント推進事業」で、蒲生小学校・加治木中学校が実践発表を行い、保護者や地域の方々が多く参加し、道德教育について、学校・家庭・地域の三者協働による推進が図られた。
- (2) 各学校において生徒指導体制が確立した。また、スクールカウンセラーを全ての中学校に配置することができ、適切なカウンセリングが実施できた。
- (3) 特別な支援の必要のある児童生徒のいる小・中学校に特別支援教育支援員 26 名を配置し、適切な介助や学習支援等を行うことができた。また、市特別支援連絡協議会により、各関係機関と連携を図り、特別支援教育の充実が図れた。
- (4) 校長研修会 8 回、教頭研修会 12 回の管理職研修会を実施し、学校の課題解決への取組や学校経営の充実に生かすことができた。
- (5) 「始良っ子子育て審議会」の提言を踏まえ、「始良市子育て基本条例」が制定された。今後は、この条例の理念に基づいて、具体的な取組を真摯に取り組んでいく必要がある。

### 3 社会教育課

13 評価項目の平均点は 4.1 点の評価。「あいら未来特使団事業」「ふるさと学寮」などの事業が定着しつつあり、青少年のリーダーの育成が進むと同時に、既存の事業の充実も図られるなど、社会教育の基盤づくりが進んだ。さらに、社会教育施設や公民館施設においても運営充実が図られるなど、良好かつ幅広く生涯学習を推進できたものと評価できる。

同じく、芸術文化活動の振興や文化財の保存と活用にあっても、初期の目的に基づく事業を推進できたものと評価できる。

・各事業の主な成果と課題

- (1) 社会教育関係職員のスキルアップや地域指導者の資質向上のため、研修会を開催すると同時に研修会への参加を進めてきた。また、社会教育関係団体の育成が図られた。さらに、各種団体への育成・支援を行っているが、市民に対する情報提供システムの構築が課題となっている。
- (2) 「あいら未来特使団事業」「ふるさと学寮」「ふるさとチャレンジャー」等青少年健全育成事業が充実し、成果があがった。また、高齢者のためのゆずり葉学級や女性のためのあやめ学級なども充実しており、それぞれに十分な成果をあげることができた。

- (3) 社会教育施設（棕鳩十文学記念館、北山野外研修センター、スターランドA I R A, 蒲生ふるさと交流館）や公民館施設（始良公民館、蒲生公民館、地区・校区公民館）では、施設・設備の維持保全に努めながら、充実した施設の運営が図られた。また、スターランドA I R Aの開館 20 周年記念で開催した「宇宙講演会」（山崎直子氏）は、大盛況であった。
- (4) 少年に対する芸術鑑賞機会の提供、文化協会や市立少年少女合唱団の育成、始良 10 号美術展の開催など、芸術文化活動の振興を図ることができた。
- (5) 指定文化財においては、史跡環境整備事業の実施や各研修会等での活用に努め、埋蔵文化財においては、発掘調査の実施と情報提供に向けた資料整理に従事した。また、歴史民俗資料館や加治木郷土館では、施設の健全な運営に努めた。

#### 4 図書館

4 評価項目の平均点は 4.1 点の評価。図書館システムの統一により、利用者数や貸出し冊数も伸びてきている。図書館資料が良好に利用されるとともに、特に子供たちを主にした各種読書会を開催することにより、多くの方が参加され読書に関心を持たれた。また、各種団体に視聴覚の機材及びビデオを貸し出すことにより、視聴覚教育が図られていくものと考えている。さらに、移動図書館のコースを見直すことにより、多くの市民が利用できるように配慮した。

##### ・各事業の主な成果と課題

- (1) 図書の貸出状況としては、一般書及び児童書などで 37 万 3 千冊余り、子ども読書活動としてお話し会 51 回、とくもりお話し会 3 回、ブックスタート事業 36 回など図書資料の利用や読書活動の推進に努めた。新たな図書館システムが導入され、利用者の利便性が図られた。
- (2) 視聴覚ライブラリーの利用実績は、機材及びビデオで利用者が 9 千人余りであり、特設コーナー等を設置しているが、さらなる視聴覚資料の利活用を推進するために、市民団体に対してもっと広報を行う必要がある。

#### 5 保健体育課

9 評価項目の平均点は 4.1 点の評価。生涯スポーツの推進については、市民の健康意識や仲間づくりを目的に各種のスポーツ大会等を実施した。学校保健関係では、児童生徒の健康診断事業や、学校安全体制の充実に努め、また、学校給食関係では、安心・安全な給食運営が図られ、それぞれ、概ね順調に推進することができた。

・各事業の主な成果と課題

- (1) 各種スポーツ大会等は、多くの参加者を得て盛大に開催することができた。参加者数は約 4,300 名余りであった。更に多くの市民が参加できるような大会の計画やその広報の充実に努めたい。
- (2) すべての小・中学校で体力・運動能力調査を実施したが、「握力」「長座体前屈」「上体起こし」に課題があることから、小中学校への体力向上のための指導を行った。また、「チャレンジかごしま」においては、北山小学校が、始良・伊佐地区で唯一学校賞を受賞した。
- (3) 学校給食については、食中毒防止や異物混入等がないよう調理従事員等を対象に給食衛生管理研修会の実施や栄養教諭等による食に関する指導等を行い、安心・安全な学校給食に努めている。今後も、さらに徹底していく必要がある。

### Ⅲ 教育委員の平成 24 年度点検評価・意見・要望等について

#### (教育委員会の活性化の推進)

- ・事前に、十分な日程調整がなされ、毎回委員全員の出席があった。今後も、責任を持って出席したい。
- ・委員の現状(教育委員の人数・任務・活動状況等)が市民にあまり認識されていない部分がある。形骸化を防ぎ、役割を果たすためにも、何らかの形で広報することも必要ではないか。
- ・早めの資料配付により、事前検討ができ、活発に質問や意見交換ができた。
- ・資料配布や連絡等が確実に行われた。さらに、学校や児童生徒等に関する現状等について情報の提供をしてほしい。
- ・市独自の先進地研修や、県・地区への研修機会が実施され、委員としての自覚・見識を深めることができた。これからの問題解決に対する参考となった。
- ・1 年に 1～2 度(訪問と行事等)必ず各学校を見ることができるとは、動きがわかるので大変よいことと思う。

#### (教育総務課関係)

- ・合併後 4 年目となり、本市教育の充実発展に向けて、職員の資質向上は極めて重要であり、役職の勤務年数などを考慮した研修等をさらに推進してほしい。
- ・職員の資質向上、健康管理への意識高揚が図られている。
- ・学校配分予算が適正に執行されるよう、今後も研修等による、事務職員の資質向上に努めてほしい。
- ・学校配分予算の適切な執行がなされている。

- ・学校施設、整備の緊急性のある補修や、学校からの要望に対し、迅速な対応が講じられている。今後も素早い対応に努めてほしい。
- ・平成 27 年度の松原なぎさ小学校開校に向けて、地質調査や設計業務が完了し、平成 25 年度～平成 26 年度の工事施工に向けて着実に推進することができた。今後は、進捗状況等を広報していく必要があるのではないかと考える。

### (学校教育課関係)

- ・平成 24 年度からの「モラル・インクルーブメント推進事業」への取組がなされ、蒲生小、加治木中の実践発表は、学校・家庭が参加しての取組となっており、着実に成果をあげている。今後はさらに、地域を巻き込んだ取組を充実してほしい。
- ・学校とSSW 等の方々との深い連携により、不登校者数が減少してきたことを大変嬉しく思う。
- ・各学校において全校的な指導体制が確立され、不登校が減少している。今後も充実した取組をお願いしたい。
- ・不登校、いじめなど人権と大きく関連していることは周知のとおりであるが、さらに人間尊重に視点を置いた校内研修に努めてほしい。
- ・幼児教育と併行して、親教育もできる連携研修も図られたい。
- ・中学校ブロックにおける、小中連携した取組の成果がでてきている。今後も各学校へのフォローをお願いする。
- ・理数支援員の配置は、本市の学力向上に大きく影響(成果)を与えていることから、さらに充実してほしい。
- ・特別支援を要する児童生徒の教育では、適正な就学指導が重要である。そのために、本市にある特別支援学校と連携し、特別支援学校では、児童生徒の実態に即した充実した施設や、適正な指導・支援等がなされていることなど積極的に広報するなど、一体となって取り組む必要があるのではないかとと思う。
- ・職場体験学習では、職業観・勤労観・主体性を育んだり、有意義な体験活動となるよう事業所と連携を図ってほしい。
- ・本市では、くも合戦・太鼓踊り・かかしづくり等郷土の素材を活用しているが、本市には多くの史跡・文化遺産・産業等が点在する。郷土のよさに気づかせ、誇りに思えるような活動を、さらに積極的に展開していくよう取り組んでほしい。
- ・始良っ子子育て審議会の審議を経て学校・家庭・地域・事業所・行政の果たすべき役割、責任が明確化され「始良市子育て基本条例」につなぐことができた。今後、市内のすべての人に浸透していくような取組をお願いしたい。
- ・本市の校長・教頭の管理職に対する研修量や内容については、自他共に認めるものとなっており、学校経営者としての資質向上に大きな成果をあげている。今後の、学校の充実に資するものと期待している。

- ・校長の学校経営の具体化のために、自己申告の面談だけでなく日頃の授業参観等をとおして、授業改善についての指導助言を行なってほしい。
- ・小規模校の特認校での児童の確保は、大きな課題の一つである。教職員の資質・指導力の向上、特色を生かした学校づくりなど、校長の経営手腕も大きく影響している。学校・教育委員会・地域が一体となって取り組む必要がある。

### (社会教育課関係)

- ・広範囲に及ぶ各種団体への支援育成は「地域力」の要である。各種団体とのより一層の連携強化と推進体制の充実が必要である。
- ・青少年の健全育成に対する本市の取組、あいら未来特使団事業、ふるさと学寮など意義ある活動が展開されているが、これらに参加した青少年を、学校と連携を図り、本市のリーダーとして活用する方策が必要である。
- ・成人式の実行委員の皆さんの運営はすばらしい。式に参加する成人の方々のモラルの向上を願う。
- ・子供会加入率アップを望む。親(家庭)の地域への関わりで左右する。
- ・各種の講座が、市民の「生涯学習」の推進に大きな役割を果たしており、魅力ある講座の開設や講座終了後、引き続き活動に取り組めるよう、同好会の育成・広報など多方面からの支援が必要である。
- ・家庭教育学級に父親の参加がほしい。ほとんど母親では？内容的にも広がりが出てくるのではないかと思う。
- ・本市の小・中学校に優れた芸術を鑑賞する機会を提供することは有意義なことであり、今後も、こういう機会を設けるとともに、日頃から芸術に親しめる環境づくりにも配慮してほしい。
- ・生涯学習推進大会は、スターランド AIRA 開館 20 周年事業と同一会場で行い、講師に女性宇宙飛行士の山崎直子氏を起用したことにより、盛会であった。今後も、対象年齢や他の事業との連携を図り、魅力ある講師の選定など工夫していただきたい。
- ・各教育施設はなくてはならないものばかりである。それぞれの施設の特徴を活用して多くの利用者呼びこんでほしい。
- ・始良公民館は大規模改修工事に入った。安全で利用しやすい公民館として改善されることを期待する。
- ・市には多くの文化財があるので、今後も管理・保存の整備を行い、歴史学習に活かしてほしい。
- ・郷土芸能の伝承、育成にはさらなる支援が必要である。
- ・楽しめる企画を今後も展開してほしい。

### (図書館関係)

- ・図書館の業務の改善、貸し出し利用の充実等の努力により、図書館が、便利でより親しみやすい身近なものとなっている。今後も改善・充実に努めてほしい。
- ・子どもから大人にいたる市民の読書推進活動のため、独創的・積極的な事業が展開されており、読書活動の中核施設として機能している。今後の、一層の努力を期待したい。
- ・図書館だより、市報あいら等で情報提供がなされている。
- ・機材、教材の活用に取り組んでほしい。
- ・各図書館施設とのシステム共有化で、図書館の利用サービスが便利になるなど充実してきた。今後の、さらなる利用促進に期待したい。

### (保健体育課関係)

- ・各種イベントが開催されているが、昨年より参加者の減少が見受けられる。イベントは、広報が大きいウェイトを占める部分もあるので、広報の工夫を図ってほしい。また、健康増進・体力づくりのほか高齢者交流のイベント等を考慮するなど、今後の企画に期待したい。
- ・スポーツ推進委員は他のスポーツ指導員とは異なっており、市民の健康・体力づくりの企画等の役割を果たすものであることから、研修等による資質の向上を期待したい。
- ・体育協会は、合併により全市的組織として機能しているが、今後さらに、組織の充実強化を図り、本市スポーツの振興・競技力の向上に取り組んでいただくことを期待したい。
- ・施設環境整備等には施設利用者の声を聞き、細かい配慮をお願いします。
- ・体力向上に向けての取組は、家庭と共有していく必要がある。
- ・体力作りが精神力強化にも繋がっている。児童生徒に適応した具体的な取組が必要である。
- ・本市の児童・生徒の通学路における安全については、スクールガードリーダーを中心とした地域の方々の協力が大きい。今後、さらに多くの方々の協力に期待したい。
- ・学校給食に地場産物を利用することは、品質・品揃えなど苦勞する面も多いと思うが、地元の身近な生産者の努力を知る機会にもなるので、できるものから続けていってほしい。
- ・衛生管理や危機意識の高揚に努めてほしい。

## IV 外部評価委員の平成 24 年度点検評価・意見・要望等について

### (教育委員会の活性化の推進)

- ・定例会及び臨時会は、適切な時期に開催され、毎回委員全員の出席があったことが評価できる。
- ・事務局から事前に届く資料に、目を通してから定例会に臨むことで、質問等を予め準備されていることと思います。活発な意見交換を今後も更に期待したい。
- ・事務局との連携が大変良く出来ている。相互の信頼関係も良い。
- ・地区・県内は元より、県外の先進地を研修する機会が得られたことは、見識を高め良い経験になったことと思う。
- ・忙しい中での学校訪問。今後もよろしくお願ひしたい。また、大卒の学校の現状だけではなく、児童・生徒の状態等も現場で把握していただけたらと思う。
- ・委員が行事等を通して現場へ出向くことは、大変効果があると評価できる。

### (教育総務課関係)

- ・各種研修や健康診断等が計画的に実施され、職員のスキルアップや健康管理が図られている。
- ・各学校の実状と要望を担当者の方が相互に理解されて、今後も適切に優先順位に沿って予算化を図って下さい。
- ・子ども達が、安心して学校生活が送れるよう、緊急性のあるものから、きちんと対策が講じられている。
- ・新設小学校建設に対して、市民の期待や関心は大きい。「松原なぎさ小学校」という素晴らしい名前も決まった。
- ・少子化の時代に小学校を新設するということは、県内からも熱い視線を向けられると想像できる。近隣の新設校(例えば国分舞鶴中)の建設における反省点などを参考にして設計段階と実際に使用した場合の違いなどを考慮していただきたい。

### (学校教育課関係)

- ・道徳教育が今や大事になって来ている。学校・地域・家族三者連携しながら今後も推進していただきたい。
- ・市内の学校全体に共通して不登校者数が減少してきたことは、何より嬉しく評価するところである。早期の対応と、各専門員との連携が円滑に進んだのであろう。今後も更なる連携をお願いしたい。
- ・幼児教育と学校教育の連携は取れているが、家庭との連携も取る必要があると思う。
- ・「家庭学習の手引き」を十分活用して頂きたい。
- ・市単独で理数支援員を配置し結果につながっていることは評価できる。さらに、他教

科にも影響を与えるよう研さんを積んで欲しい。

- ・特別支援員は、特別支援を要する学校では不可欠の存在となっている。今後は、処遇の向上も考えていかなければならないのでは。
- ・職場体験学習などは、有意義な学習となっているようであるので、今後も事業所などとの連携協力・支援をお願いしたい。
- ・地域の方を講師として招聘し、伝統芸能や文化を学べることは本当に素晴らしい。太鼓踊りは、後継者不足で存続が危ぶまれている地区もあると聞いている。学習が一過性のものに終わらず将来の後継者になっていってもらえたらと切に願う。
- ・本市の子育てに対する熱意や特色を集大成した「始良市子育て基本条例」の制定により、市民全体で子育てをすることへの意識向上へ繋がることと期待が高まる。そしてまた、広く市民に浸透していく取組も必要と思う。
- ・今後も、学校評議員や評価委員の意見を取り入れ、地域等へ発信していただきたい。
- ・特認校それぞれが、特色ある又魅力ある教育活動を行っていると思う。今後も支援をお願いしたい。

#### （社会教育課関係）

- ・社会教育委員のメンバーは、広いジャンルの団体から選出されているので、それぞれの立場からの意見交換ができる機会があり、参考になる話を聴くことができる。ただ、市民の認識度は低いと想像する。
- ・社会教育委員は、各社会教育団体の代表者に委任されているが、その役割や任務を市民に十分周知してもらいたい。
- ・地域の「子ども会」離れは、年々増加している。魅力ある「子ども会」にするために、自治会の大人達も努力をする必要があると感じた。
- ・それぞれの学校や団体で、特色ある様々な取組がなされていると思う。今後も、講師派遣や助言等の支援をお願いいたします。
- ・幼少期のうちから、優れた芸術を鑑賞することはとても良い刺激であり、成長過程にも良い影響を受ける。プロによる演目を間近で鑑賞して、五感も豊かになることだろう。
- ・スターランド AIRA 開館 20 周年にあたり、山崎直子氏を記念講演にお招きできたことは、市民にも非常に嬉しく感動した日になった。加音ホールを埋めつくした聴衆は、子どもから高齢者まで年齢層も広く、皆が一言一句聴きもらさないようにと熱心に耳を傾けていた。本市の歴史に残る大会となったと思う。
- ・本市にはすばらしい社会教育施設があるが市民の利用度が少ないのが残念だ。
- ・始良公民館の改修工事完成を、市民が待ち望んでいることと思う。
- ・本市の文化財を学ぶ機会や、歩き・見・ふれる機会を多く持ち市民として大人も小人も我が町を語る力を身につけたいものです。

- ・本市には多くの文化財があり、整備も充分されており、今後も継続的に取り組み、情報発信して頂きたい。
- ・すばらしい事業がなされているが、市民への周知が今一つ。広報、啓発に取り組んではいるが、市民の参加が少ないようである。

#### (図書館関係)

- ・市報による広報活動が、とても充実している。
- ・気候のよい時期に、星空の下で夜のおはなし会や映写会なども(安全が保たれるならば)印象に残ることと思います。
- ・学校からの依頼があって出かけるという「出前読み聞かせ」は大人にも聞いてもらいたいと思った。語りかけるような声で本を読んでもらうと、何とも言えない心穏やかな気持ちになれる。この感覚を、保護者(特に父親)に体感してもらいたい。
- ・市民の図書館として大いに活用されていると思います。
- ・貸出し、返却がシステム化され利用サービスがうまく機能されている。

#### (保健体育課関係)

- ・市民の健康増進や親睦のため、各種大会等が開催されているが、市民の多くの参加ができるようにしてもらいたい。
- ・若手スポーツ推進員の育成も期待します。市民の健康保持増進の為にラジオ体操を活用して、本市独自の体操のお兄さん・お姉さんのような指導者に、幼・保・小・中・一般と楽しく正しく指導してもらうのはいかがでしょうか。ゆるキャラの「くすみんちゃん」も加えてみたらおもしろいと思う。
- ・スポーツ推進員による生涯スポーツ、軽スポーツの普及に推進してもらいたい。
- ・体力向上を、家庭と学校が協力して推進していくのが理想だと思う。
- ・学校体育等で、スポーツの重要性を分からせることにより、今後、生涯スポーツへ繋がっていくのではないか。
- ・スクールガードリーダーの役割は大きいと評価しています。
- ・各学校でも、スクールゾーン対策委員で子供達の安全に対する協議がなされて、安心安全な登下校が出来るように改善策がなされている。
- ・生産者と交流する機会を設けることで、生産者や産物に対する感謝の気持ちが更に強まると思う。
- ・学校給食は、十分な管理と連携の下で提供されていると思います。今後とも子どもたちが、興味をそそる具材や献立を考えて頂いて、食育の充実を図って下さい。

# 始良市教育委員会事務事業自己点検・評価シート（平成24年度事業）

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
教 育 総 務 課	教育委員会の活性化の推進	定例教育委員会・臨時教育委員会の開催状況	開催回数等	定例会・臨時会の適切な時期での開催	①定例会12回、臨時会2回、始良市教育委員会の行政組織等に関する規則で定められた毎月10日前後の開催に努めた。 ②臨時会では、教育委員長選任、職務代理者指定、教職員の内示を行った。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、十分な日程調整がなされ、毎回委員全員の出席があった。今後も、責任を持って出席したい。</li> <li>・適性な時期に開催され、必要な議案が上程され、審議されている。</li> <li>・委員1名の退任により、1ヶ月委員空席の時期があったが定例会も滞りなく開催された。</li> <li>・事前に十分な日程調整がなされている。今後も責任をもって参加したい。</li> <li>・委員会報告の中でも、特に学校現場の現状報告が詳しくなった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会及び臨時会は、適切な時期に開催され、毎回委員全員の出席があったことが評価できる。</li> <li>・定期的に適切に開催されて問題は無い。</li> </ul>
		議案の審議状況	審議件数の妥当性と委員の意見反映	委員の意見反映度	①予算議案4件、規則等改正20件、附属機関の委員等の委嘱9件、その他6件、計39件の議案及び報告3件のすべてが議決・承認された。 ②ほとんどの案件に質疑等が出されると共に活発な意見交換が行われた。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の現状(教育委員の人数・任務・活動状況等)が市民にあまり認識されていない部分がある。形骸化を防ぎ、役割を果たすためにも、何らかの形で広報することも必要ではないか。</li> <li>・早めの資料配付により、事前検討ができ、活発に質問や意見交換ができた。</li> <li>・質疑に適確な説明がある。</li> <li>・委員としても深く熟知して臨むように努力したい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から事前に届く資料に目を通してから定例会に臨むことで、質問等を予め準備されていることと思います。活発な意見交換を今後も更に期待したい。</li> <li>・すべての議案が承認され活発な意見が出されている。</li> </ul>
		事務局との連携	委員への委員会事前資料配付と事務局への資料要求等	教育委員と事務局の連携	定例会・臨時会当日3日前に各教育委員に、議案及び教育委員・事務局の行事の資料配布に努めた。 また、説明に必要な資料の配布も行った。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料配布や連絡等が確実に行われた。さらに、学校や児童生徒等に関する現状等について情報の提供をしてほしい。</li> <li>・事前の配布が確実に行われ、事前検討が図られた。</li> <li>・十分な連携である。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局との連携が大変良く出来ている。相互の信頼関係も良い。</li> <li>・連携がうまく取られている。</li> <li>・教育委員の方々のサポートを、計画に基づいて実施されている。</li> </ul>
		教育委員の研修	研修の機会	県・地区・市独自の研修内容	①県主催の研修 市町教育委員会研究協議会他1の研修会 ②地区の研修 地区市町教育委員会連絡協議会総会・研修会	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市独自の先進地研修や、県・地区への研修機会が実施され、委員としての自覚・見識を深めることができた。これからの問題解決に対する参考となった。</li> <li>・見識を高める為にも可能な限りいろいろな会に参加したい。</li> <li>・地区研修は、意見交換もしやすくよい機会であった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな知見を得るために、研修の機会を多く設定することは良いことだと思います。得られたものを広く現場で活かされるような還流会もあってよいと思います。</li> <li>・地区・県内は元より、県外の先進地を研修する機会が得られたことは、見識を高め良い経験になったことと思う。</li> <li>・十分な研修が行われている。すばらしい。</li> <li>・忙しい中での学校訪問。今後もよろしくお願ひしたい。また、大卒の学校の現状だけではなく、児童・生徒の状態等も現場で把握していただけたらと思う。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
教育 総務 課	教育委員会の活性化の推進	教育委員の活動状況	教育委員会主催行事への参加	学校、教委主催行事、その他行事の参加状況	市独自の学校訪問や教育事務所との合同訪問、水泳・陸上記録会、文化祭、成人式等の各種行事に積極的な参加がなされた。 学校訪問では、積極的な意見交換や質議がなされた。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に、学校訪問では、積極的な意見交換や質疑応答が行われた。可能ならば、学校の全教職員と顔を合わせる時間の設定が望まれる。</li> <li>各行事へ参加し、定例会等で感想や意見交換が行われた。</li> <li>特に学校訪問では、積極的な意見交換や質問が出されている。</li> <li>1年に1～2度(訪問と行事等)必ず各学校を見ることができるとは、動きがわかるので大変よいことと思う。</li> </ul>
	適正な人事管理業務の推進	職員の資質向上と健康管理の保持	職員研修・健康診断・健康講話	研修と健康診断等の実績内訳	<ul style="list-style-type: none"> <li>①県自治研修センターの役職別研修:課長補佐1名、係長1名、OJD1名、主査1名、一般職員基礎2名、新規採用職員1名、法制実務2名</li> <li>②市独自 新採用:自衛隊入隊、マナー、リサイクル、防災、文書事務 各1名、文書事務14名</li> <li>窓口サービスステップアップ2名、人権同和問題研修6名、財務研修59名</li> <li>③職場健康診断受診者:正規職員37名、臨時職員32名</li> <li>④人間ドック:市町村共済29名、学校共済20名</li> <li>⑤生活習慣病予防検診(社保適用者):20名</li> <li>⑥健康講話:14名</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>合併後4年目となり、本市教育の充実発展に向けて、職員の資質向上は極めて重要であり、役職の勤務年数などを考慮した研修等をさらに推進してほしい。</li> <li>職員の資質向上、健康管理への意識高揚が図られている。</li> <li>職員の健康管理に対して、その重要性を理解できており、実施されている。</li> <li>合併以来、課題を一つ一つ解決され、中長期的展望に立って前進する始良市をすばらしいと思っています。今後も職員の研修や健康管理に留意されて、ほどよい動静のバランスで、市民も一体となった人と自然にやさしい住環境を整えて下さい。</li> <li>職員の資質と健康管理には十分な対応がなされている。</li> <li>各種研修や健康診断等が計画的に実施され、職員のスキルアップや健康管理が図られている。</li> </ul>
	適正な財務事務の推進	財務事務の効率的な運営・適正な予算の編成及び執行	学校会計事務の改善・年次計画の予算編成と効率的な予算執行	学校事務職員研修の実施状況、定期監査、決算監査、実施計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校事務職員研修を旧3町ごとに年間6回合計18回実施し、財務会計システムの操作研修や執行における留意点の説明等、財務事務の円滑な執行に努めた。</li> <li>②23年度決算監査、24年度定期監査結果は適正な予算執行が図られていることから指摘事項は無かった。</li> <li>③学校備品検査の実施は無かった。</li> <li>④第3次実施計画25年度から27年度まで3年間の策定がされた。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校配分予算が適正に執行されるよう、今後も研修等による、事務職員の資質向上に努めてほしい。</li> <li>学校配分予算の適切な執行がなされている。</li> <li>昨年通り。</li> <li>監査結果に指摘事項がなかったことは良かった。今後、3次実施計画に則った財務事務の適性執行をお願いします。</li> <li>学校事務は研修会の実施により、回を重ねる毎にその成果が高まった。</li> <li>会計の透明性が重要と思われる。</li> <li>学校備品検査は実施されなかったとのこと。</li> <li>各学校の実状と要望を担当者の方が相互に理解されて、今後も適切に優先順位に沿って予算化を図って下さい。</li> <li>適切な予算執行がなされている。</li> </ul>
	良好な教育環境整備の推進	安全・安心な学校づくりと教育施設整備状況	各施設整備状況と耐震化の推進及び主な施設整備状況	主な教育施設整備の工事及び修繕料等の実績	小学校は、帖佐小学校2号棟校舎に便所がなかったため、便所の増築を行うことにより、トイレの洋式化と不足を解消した。また、蒲生小学校の上校舎と下校舎の段差に柵を設置することにより、落下の危険を解消した。中学校は、重富中学校の弓道場更衣室が経年劣化により危険建物であったため建替えを行い、不便の解消を行った。また、加治木中学校は、バイパスに近いこともあり、音楽室での授業中の窓開放が出来なかったが、空調機を設置することで、授業時の不便を解消した。今後の課題としては、大半の校舎・体育館が古く危険回避の為の改修工事を実施していく必要がある。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設、整備の緊急性のある補修や、学校からの要望に対し、迅速な対応が講じられている。今後も素早い対応に努めてほしい。</li> <li>校舎や体育館など、多額の経費を要するが改修の必要な建物(施設)についても、可能な限り早急に、かつ計画的に取り組んでほしい。</li> <li>緊急性のある補修危険箇所など早い措置ができています。</li> <li>各施設ニーズに合った整備が望ましい。</li> <li>障がい者への心配りもほしいところでもある。</li> <li>防災上、避難拠点となるところは、国の予算を活用して早急な改善が望まれる。</li> <li>旧始良町の小学校は施設設備が老朽化していると保護者の声を時々耳にする。緊急性のある補修などを優先に、迅速適切な対応がとられている。</li> <li>教育の施設整備や修繕等適切になされている。</li> <li>子ども達が、安心して学校生活を送れるよう、緊急性のあるものから、きちんと対策が講じられている。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
教育総務課	良好な教育環境整備の推進	分離新設小学校建設	(仮称)松原小学校建設進捗状況	新設小学校建設における設計等について	分離新設小学校建設について、平成25年度からの建設を前に設計事務所の選定及び地質調査を実施した。設計事務所選定については、(仮称)松原小学校新築工事設計業務委託選定委員会を設置し、業者の選定及び業者決定後は、建設検討委員会を設置し、地元市民を含め設計内容について、精査を行い設計を進め、設計業務を完了した。今後は、2か年の建設期間を経て平成27年4月開校を目指す。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度の松原なぎさ小学校開校に向けて、地質調査や設計業務が完了し、平成25年度～平成26年度の工事施工に向けて着実に推進することができた。今後は、進捗状況等を広報していく必要があるのではないかと考える。</li> <li>新設だからこそできる画期的な委員会での検討をお願いしたい。</li> <li>工事等については、進捗率などの数字で成果を示してほしい。また、市民報などで工事の進捗を知らせ、地域住民に早期から愛校心をもってもらうこともいいのではないだろうか。</li> <li>新設小学校建設に対して、市民の期待や関心は大きい。「松原なぎさ小学校」という素晴らしい名前も決まった。</li> <li>少子化の時代に小学校を新設するということは、県内からも熱い視線を向けられると想像できる。近隣の新設校(例えば国分舞鶴中)の建設における反省点などを参考にして、設計段階と実際に使用した場合の違いなどを考慮していただきたい。明るく光を取り入れるための扇形校舎は、非常に暑いらしいです。</li> <li>建昌小校区、松原なぎさ小校区の境界に在る地域については、より安全な通学路の確保上、二者択一のケースが生じるものと思います。該当保護者の意見聴取も図られたい。</li> <li>新設学校がすばらしい学校になるよう期待したい。</li> </ul>
学校教育課	規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進	豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実	道德の時間の授業力向上 家庭や地域と連携した取組の推進	モラルティ・インブループメント推進事業 道德教育の研究協力校指定	<p>① モラルティ・インブループメント推進事業においては、蒲生小学校・加治木中が実践発表を行い参加者が両校とも100名を超えた。教員だけではなく、地域・保護者も参加して、学校・家庭・地域の三者協働による道德教育の推進が図られた。</p> <p>② 道德教育を充実させるために、学級経営研修会・道德の時間指導法開発委員会を実施した。</p> <p>③ 道德の時間を充実させるために、道德の時間充実リーフレットを作成し、全職員に配布した。各学校における道德教育研修などに、今後積極的に活用されるよう働きかける必要がある。</p> <p>④ 地区研究協力校として重富小学校道德教育研究発表を行い、授業研究において積極的な意見交換が行われよりよい授業に向けての有意義な研修となった。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度からの「モラル・インブループメント推進事業」への取り組みがなされ、蒲生小、加治木中の実践発表は、学校・家庭が参加しての取り組みとなっており、着実に成果をあげている。今後はさらに、地域を巻き込んだ取り組みを充実してほしい。</li> <li>豊かな情操・感性を育てる道德教育の推進事業においては、蒲生小学校の「あったかさ育成大作戦」や、加治木中学校の「故永井隆博士の生涯を描いた構成劇」などが実践発表された。児童、生徒のいきいきとした発表に保護者、地域の方々は先生方の指導に高い評価をされていた。</li> <li>事業においてすばらしいとりくみが各学校で行われているところである。</li> <li>規範意識を養う三者協働、ますます力を入れていくところだろう。</li> <li>推進事業の策定とその実践発表ともにすばらしい。継続して予算化して推進すべき事項ととらえる。</li> <li>道德性の向上の取り組みについて、学校・家庭・地域三者協働の必要性を認識した。</li> <li>研究協力校が指定され、授業研究において活発な意見交換が行なわれたことは高く評価できた。</li> <li>実践を輪番的に行うことで、各学校の特色が活かされ、一校一自慢にも繋がっていくと思います。</li> <li>道德教育が今や大事になって来ている。学校地域家族三者連携しながら今後も推進していただきたい。</li> <li>道德教育の重要性について、各学校が認識し、取り組まれており素晴らしいと思う。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
学 校 教 育 課	規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進	児童生徒の心に届く生徒指導の充実	家庭・関係機関と連携した不登校・いじめ問題等の積極的生徒指導	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の教育相談事業の実績	<p>① 生徒指導主任等研修会の中で、県総合教育センターと連携を図り、児童生徒理解への具体的な方策について研修を実施することができた。また、各小中連携ブロック内での共通実践事項や、規範意識の向上、問題行動への対応について、協議を深めることができた。更に、少年院への研修視察を実施し、問題行動の背景や更正への働きかけ等について具体的な事例をもとに研修を行った。</p> <p>② 不登校問題では、校内での取組やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ふれあい教室、心健やか教育相談員との連携によりほとんどの学校で、不登校が減少した。</p> <p>③ いじめ問題については、いじめ問題を考える週間を設定し、アンケートや道徳の授業、保護者への啓発、標語作成など、児童生徒の主体的な取組を重点的に行った。いじめアンケートを実施し軽微なものまで把握に努めた結果、750件のいじめが認知され、全てが解消している。</p> <p>④ 教育相談体制については、スクールカウンセラーを全ての中学校に配置することができ、適切なカウンセリングを実施することができた。</p>	4	<p>・各学校において、全校的な指導体制が確立し、大きな問題行動は発生していないが、不登校の児童生徒がいたり、いじめ等若干みられることから、今後、中学校連携ブロックでの共通実践事項を中心に、家庭との連携を強化するなど、学校の実態に基づく取り組みを充実させてほしい。</p> <p>・学校とSSW等の方々との深い連携により、不登校者数が減少してきたことを大変嬉しく思う。</p> <p>・各学校において全校的な指導体制が確立され、不登校が減少している。今後も充実した取組をお願いしたい。</p> <p>・いじめに対しては早急な対応と十分な調査をお願いしたい。</p> <p>・声を出せない児童生徒に対する深い心配りと、相談員への連携も充分に行なわれたい。</p> <p>・相談で終ることなく、対策は家庭・学校(地域)が十分に継続されたい。タイミングが大事であると考え。</p> <p>・生徒指導の充実には、専門家の招聘あるいは専任者を設けることで効果があることは明確である。手厚い支援を学校へおこなってほしい。</p> <p>・市内の学校全体に共通して不登校者数が減少してきたことは何より嬉しく評価するところである。早期の対応と、各専門員との連携が円滑に進んだのであろう。今後も更なる連携をお願いしたい。</p> <p>・750件のいじめを認知ということで、中には、悪戯・冗談の部類に入るものもあるかもしれませんが、現状ではいじめに対するす早い対応が望ましいと思います。子どもたちにも、一日のグループディスカッションのような時間を設けて自己を表現する能力を養うことで、対等な仲間作りに繋げてほしいと思います。</p> <p>・行政、学校では子供達には十分な指導がなされているが家庭で教育が不十分なような気がする。</p> <p>・「750件のいじめが認知され、全てが解消している」とあるが、本当に全てが解消しているのかとの疑問もある。報告された数字だけでなく実態として把握いただきたい。</p>
	人権教育及び体験活動や読書活動	人権意識の高揚 体験活動や読書活動の充実	各人権課題に応じた研修会の工夫・改善	<p>① 人権教育に係る校外の研修会に、のべ56人の教職員が参加し、研修を深めることができた。</p> <p>② 県教育委員会が作成した人権教育資料等を、全教職員に配布し、校内研修をはじめとした日常的な活用を促した。</p> <p>③ 校内研修の回数が少ない学校があるので、年3回の開催について指導を図っていきたい。また、研究授業を伴った校内研修を推進していくと共に、授業参観をする際に、人権尊重の視点を据えるように指導していく必要がある。</p> <p>④ 各学校における校内研修において、伝達研修スタイルだけではなく、参加型研修になるよう働きかけ、人権意識を高めることができた。</p>	4	<p>・不登校、いじめなど人権と大きく関連していることは周知のとおりであるが、さらに人間尊重に視点を置いた校内研修に努めてほしい。</p> <p>・読書活動が、全ての学校で活発であるが、ややもすると冊数にこだわる機会もあり、内容の深さも含め、家族ぐるみでの読書など挑戦してほしい。</p> <p>・人権教育については、どの学校も校内・校外研修等で人権意識が高まってきている。教育活動において生かしてほしい。</p> <p>・人権は他人事ではないので、身をもっての参加型研修は意味がある。</p> <p>・研修の在り方は極力一方向でなく双方向のものとなるよう学校へ案を提示すると良いのではないだろうか。</p> <p>・ニュースで放映される凶悪な犯罪が、ここ最近低年齢化してきて、心が痛む思いがする。16才、17才など。人の尊い命を奪って罪の意識が無いとはあまりにも悲しい現実です。人権教育・・・特に、人間として生きる権利について(命の尊さ)義務教育を終了するまでに何回でも授業をして欲しいと思います。</p> <p>・人権教育については各学校も研修等で意識が高まっている様子が見えてきて望ましい。</p>	

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
学 校 教 育 課	規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進	幼児教育の充実	円滑な接続を図る幼小連携 教員の指導力向上	職員研修の充実 幼・保・小連携研修会 幼小交流学習	① 幼・保・小連携研修会は、年に2回実施し、公立の保育所・幼稚園・小学校並びに私立幼稚園等も参加し、始良市の幼児教育と小学校教育の連携を図ることができた。 ② 幼・保・小連携研修会を踏まえて、幼・保・小相互の授業参観や保育参観、入学してくる幼児の情報確認会などが、各幼・保と小が相互に連絡を取り合い行うことができた。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立幼稚園の特色(長所)の一つとして、身近に小学校があり、その特色を生かした幼・小の連携した取り組みが可能であることを生かした取り組みを、一層充実していく必要があると思う。</li> <li>将来の社会を担う人材を、今育てているという意識を忘れないでほしい。</li> <li>幼児教育と併行して、親教育もできる連携研修も図られたい。</li> <li>幼稚園においては、公私関係なく研修会を実施したことは、市内全ての園児を対象にしたことと同じ意義があると思う。</li> <li>幼・保・小の連携を密にすることで、入学前に幼児の情報を整理し、入学受け入れの準備を整えることができると思います。私立幼稚園が研修会に参加できるようになって更に充実したことと思います。</li> <li>幼児教育と学校教育の連携は取れているが家庭との連携も取る必要があると思う。</li> <li>幼小連携、小中連携は非常に大切だと思う。今後も続けていただきたい。</li> </ul>
	能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進	「確かな学力」の定着、	県基礎基本定着度調査・標準学力検査 中学校ブロックの学力向上推進	学力向上アクションプラン推進事業	① 各中学校をブロックとした小・中合同の研修会をそれぞれ年数回実施し、相互授業参観や参観を踏まえての情報交換が活発に行われ、共通実践事項を共通理解することができた。県定着度調査では県平均を大きく上回ることができた。 ② 各中学校ブロックごとに「家庭学習の手引き」を作成し、全家庭へ配付することができた。今後は、手引きの積極的な活用を図っていきたい。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の各中学校をブロックとした学力向上への取り組みは、小・中の連携、学校・家庭・地域が一体となっており、大きな成果をあげている。しかし、学校によって差異があることも確実であり、今後も、さらに教育委員会としてフォローしていく必要がある。</li> <li>中学校ブロックにおける、小中連携した取組みの成果がでてきている。今後も各学校へのフォローをお願いする。</li> <li>教科部会の充実をお願いしたい。</li> <li>家庭学習の取り組みに力を入れる。</li> <li>定着度調査が良かったことは評価できる。</li> <li>学力向上の研修としてどのような施策が効果があり定着度調査の向上につながったのか、さらに分析してください。</li> <li>「家庭学習の手引き」が上手く活用されることを願う。</li> <li>小・中連携した学習指導により学力の過不足がわかり、全体の学力アップに繋がる取組みがなされていると思います。</li> <li>小中合同の研修会で学力向上の取組によってすばらしい成果を上げている。</li> <li>家庭学習の手引を十分活用して頂きたい。</li> </ul>
	理数・外国語教育の充実	理科、算数・数学の授業の改善・工夫 小・中外国語教育の充実	理数・外国語教育推進事業 外国語活動指導法や理科指導法等の各種研修会	① 算数数学科では、小学校2校、中学校1校における研究授業公開で、指導力の豊かな教師による質の高い授業が提供された。 ② 理数定着支援員を小学校3校に配置し、その成果を実施校校長連絡会において、共有することができた。なお、理数定着支援員を配置した全ての学校で県「基礎・基本定着度調査」の通過率が向上した。 ③ 外国語活動において市研究協力校として、平成22～23年度に2校、平成23～24年度に2校を指定し、研究の充実を図った。25年度以降についても、中学校ブロックにおける小学校外国語活動と中学校英語科指導の系統性を重視した研究を進めていく方向で、参加者の意欲を向上させることができた。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究公開に当たっては、小・中学校の先生方が参加しての研究公開を通じて、相互に研修・研究することが重要であると思う。特に、小学校の外国語活動は学校(学級)間の差が感じられることから、中学校と連携した教職員の資質・指導力の向上が望まれる。</li> <li>理数支援員の配置は、本市の学力向上に大きく影響(成果)を与えていることから、さらに充実してほしい。</li> <li>5・6年生の外国語活動の授業で、児童が楽しく活発に発言・発表している姿を参観した。小学校から中学校へのスムーズな接続ができるのではと期待するところだ。</li> <li>外国語に苦手意識をうえつけない指導法に力を入れてほしい。</li> <li>大いに研修を積む必要がある。</li> <li>市単独で理数支援員を配置し結果につながっていることは評価できる。さらに、他教科にも影響を与えるよう研さんを積んで欲しい。</li> <li>理数定着支援員の配置により、子ども達がより興味を深めて、理数離れを転じていって欲しい。難問を解く楽しさや喜びを感じてもらいたい。</li> <li>グローバルな人材を必要とする現代では、理・数・外国語は大切な分野だと思います。一方国・社・音・体・技・美など前者に比べて後者を得意とする者の能力(学力)アップのチャンスも考慮して下さるように願います。</li> <li>指導力を高めるために研修を重ね改善工夫を充実させて頂きたい。</li> </ul>	

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
	能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐむ教育の推進	特別支援教育や情報教育の充実の推進	障害に応じた適切な就学指導の推進 市特別支援連携協議会等の充実	特別支援教育研修会等各種研修会の実績 特別支援教育支援員配置事業	①特別支援教育では、幼児、児童生徒の適正な就学を目指して、障害児就学指導委員会を計画通り開催できた。 ②市特別支援連携協議会を設立し、各関係機関と連携が図れた。 ③特別支援教育支援員を26名配置し、特別に支援の必要のある児童生徒の介助や学習支援を行うことができた。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援を要する児童生徒の教育では、適正な就学指導が重要である。そのために、本市にある特別支援学校と連携し、特別支援学校では、児童生徒の実態に即した充実した施設や、適正な指導・支援等がなされていることなど積極的に広報するなど、一体となって取り組む必要があるのではないかとと思う。</li> <li>近年、特別支援を要する幼児が、幼稚園に入園してくる姿が見られることから、幼児の入園等や指導者確保など適切に対応していく対策が必要である。</li> <li>特別支援員の配置により、児童生徒も安心して学習に取り組んでいた。</li> <li>支援教育は、長期的スパンで幼・小・中・高へ連携が重要と思われる。</li> <li>障害に応じた、細やかかつ適切な指導の大変さもよくわかる。研修会等も必要かと思う。</li> <li>特別支援員の配置で、児童生徒も安心して取り組める。さらに国に働きかけて予算がもらえるよう努力してください。</li> <li>特別支援の研修会等を重ね、障害に応じた就学指導が必要だと思う。</li> <li>特別支援員は、特別支援を要する学校では不可欠の存在となっている。今後は、処遇の向上も考えていかなければならないのでは。</li> </ul>
学 校 教 育 課	能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐむ教育の推進	進路指導・キャリア教育の充実	進路指導の推進 キャリア教育の充実	地域が育むキャリア教育推進事業 小学校職場見学学習、中学校職場体験学習	① キャリア教育推進会議及びキャリア教育担当者研修会をそれぞれ2回実施し、中央教育審議会が示すキャリア教育の趣旨や今後の方向性について、事業所、各学校へ啓発を図ることができた。 ② キャリア教育に関するリーフレットを作成することができた。今後、職場体験学習や職場見学等協力していただく事業所一覧を作成する。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の職場で、生き生きと活動している生徒の姿を見たとき、事業所の協力に感謝するとともに、体験学習に差異が生じないよう、趣旨を十分理解していただくよう学校を指導していくことが重要である。</li> <li>職場体験学習では、職業観・労働観・主体性を育んだり、有意義な体験活動となるよう事業所と連携を図ってほしい。</li> <li>マンネリ化することなく、様々な職種(生き方)にふれてほしい。</li> <li>市全体で子らを育てる共通認識が望まれる。</li> <li>職場体験学習に臨む事前研修として、生徒それぞれが、挨拶や言葉使い等の自主練習をする必要があると思う。</li> <li>笑顔で挨拶ができて、丁寧な言葉使いで労働体験をすることによりこの学習が更に充実すると思う。</li> <li>職場見学体験は、とてもよい学習法だと思います。多種多様な仕事を理解する一方で、様々な人たちとの出会い(社会的弱者の存在など)を糧にしてほしいと思います。</li> <li>職場体験学習で各事業所で目にする、すばらしい光景だ。</li> <li>職場体験学習などは、有意義な学習となっているようであるので、今後も事業所などとの連携協力・支援をお願いしたい。</li> </ul>
	体験活動や郷土教育の充実	社会貢献・奉仕の精神を育む体験活動 学校の実態に応じた郷土教育の充実	総合的な学習の時間 研究補助事業 郷土の素材の教材化	① 各小中学校において、体験学習を重視し伝統文化を学習する際に、講師を招聘し内容の充実化を図ることができた。 ② くも合戦、太鼓踊り、山田のかかしづくりなど各学区における郷土の素材を学習内容として活用することで、郷土の素材を生かした学習の充実を図ることができた。	① 各小中学校において、体験学習を重視し伝統文化を学習する際に、講師を招聘し内容の充実化を図ることができた。 ② くも合戦、太鼓踊り、山田のかかしづくりなど各学区における郷土の素材を学習内容として活用することで、郷土の素材を生かした学習の充実を図ることができた。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、くも合戦・太鼓おどり・かかしづくり等郷土の素材を活用しているが、本市には多くの史跡・文化遺産・産業等が点在する。郷土のよさに気づかせ、誇りに思えるような活動を、さらに積極的に展開していくよう取り組んでほしい。</li> <li>伝統芸能を地域の方から学ぶ機会はすばらしい。故郷を愛する心を多くの子供たちに持ってほしい。</li> <li>運動会、体育祭等で郷土芸能を取り入れている学校もある。始良市にある歴史や文化、伝統を学ぶ機会づくりは重要である。</li> <li>地域による差は多少あると思うが、大変充実していると思う。</li> <li>社会教育課との連携により、文化財の教材化をおこなっても良いのではと感じる。</li> <li>地域の方を講師として招聘し、伝統芸能や文化を学べることは本当に素晴らしい。太鼓踊りは、後継者不足で存続が危ぶまれている地区もあると聞いている。学習が一過性のものに終わらず将来の後継者になっていってもらえたらと切に願う。</li> <li>郷土の文化財・産業等について実際眼に触れる機会は限られていると思います。映像等で学ぶ機会を増やし、誰もが郷土のことを語れる人に育ってほしいと思います。</li> <li>加治木中学校では総合学習の中に郷土芸能を取り入れて大変有難い。</li> <li>郷土の様々な伝統行事等を教育活動の中に取り入れている。今後も、歴史や伝統を学ぶ機会をどんどん行ってもらいたい。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
学 校 教 育 課	児童生徒や保護者、地域社会に信頼される学校づくりの推進	魅力ある学校づくりの推進	学校経営総合計画に基づく学校経営の推進  学校評価や学校評議員制度を生かした学校経営	始良っ子子育て審議会  学校の自己評価、学校関係者評価の活用	① 年6回の審議会を開催し、学校、家庭、地域、事業所、行政の自立への教育を目指して、それぞれの果たすべき役割と責任を明確にするとともに、市民総ぐるみによる協働の取組について具体的な提案をすることができ、「子育て基本条例」制定につながることができた。  ② 学校評議員や学校関係者評価委員の率直な意見・感想等を職員や家庭・地域にも紹介したり、要望等については学校経営の課題としてグランドデザインに表記したりして、改善に努めることができた。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始良っ子子育て審議会の審議を経て学校・家庭・地域・事業所・行政の果たすべき役割、責任が明確化され「子育て基本条例」につながることができた。今後、市内のすべての人に浸透していくような取組をお願いしたい。</li> <li>・自校愛を育むとり組みに期待している。</li> <li>・子育て基本条例の制定はすばらしいと思います。今後の施策に期待しています。また、他市町からも注目されています。</li> <li>・本市の子育てに対する熱意や特色を集大成した「子育て基本条例」の制定により、市民全体で子育てをすることへの意識向上へ繋がることと期待が高まる。そしてまた、広く市民に浸透していく取組も必要と思う。</li> <li>・学校評議員や評価員の会合で生徒、先生方の様子等がよくわかる。</li> <li>・今後も、学校評議員や評価委員の意見を取り入れ、地域等へ発信していただきたい。</li> </ul>
	学校運営の充実及び教職員の資質向上	管理職や教職員の資質の向上  学校の組織体制や指導体制の充実	管理職研修会  学校訪問  指導力向上セミナーや教育実践研修会等の各種研修会	① 校長研修会10回、教頭研修会は宿泊研修も含め12回実施し、時期に応じた課題解決への取組を充実させ、管理職としての職責感や学校経営への意欲を高めることができた。  ② 教育事務所との合同訪問を含め、全幼稚園、小・中学校の学校訪問を計画的に実施し、実態に応じた指導助言を行うことができた。  ③ 夏季休業中に教職員を対象に、五教科の指導力向上セミナーを教育事務所や附属小・中学校等から講師を招聘し実践的な研修会を開催した。市内255人の教職員が参加し、明日の授業に生かせる実践的な研修会となり好評であった。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の校長・教頭の管理職に対する研修量や内容については、自他共に認めるものとなっており、学校経営者としての資質向上に大きな成果をあげている。今後の、学校の充実に資するものと期待している。</li> <li>・計画学校訪問は、市内の学校の実態を直接見聞でき、大きな役割を果たしている。特に、教育委員にとっては、委員に質問や指導の時間を設定してもらい、委員の自覚・意欲づくりに影響を与えている。</li> <li>・教育事務所や附属小中等の講師による指導力向上セミナーなど、実践的研修は他市町に誇り得る充実した研修で、本市の教職員にとって意義あるものとなっている。</li> <li>・校長の学校経営の具体化のために、自己申告の面談だけでなく日頃の授業参観等をとおして、授業改善についての指導助言を行なってほしい。</li> <li>・「魅力ある先生」を育ててほしい。</li> <li>・管理職の先生方で「教師はすばらしい仕事」と情熱を注ぎつづけてほしいと思います。</li> <li>・ストレスのたまりやすい職位である教頭に、13回もの研修会を設定できたのは大変良かったと思います。</li> <li>・管理職研修の充実で、学校経営の資質向上に繋がっていると思う。</li> <li>・管理職の先生方の心のケアも事務局で気配りしていただきたいと思う。</li> </ul>	

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
学校教育課	児童生徒や保護者、地域社会に信頼される学校づくりの推進	小規模校・複式教育の充実	小規模校のよさを生かした特色ある教育活動  複式学習指導の工夫・改善	小規模校・複式学習指導法研修会  小規模校特認校制度の実績  集合・交流学习の実績	① 小規模校・複式学習指導法研修会において、研究授業を通じた授業研究など、実践的な研修を行うことができ、その結果確かな学力の定着を図ることができた。  ② 現在17名が特認校に通学している。(そのうち、8名が平成24年度新規)平成25年度も広報誌などを活用し、さらに周知を図っていく予定である。  ③ 小規模校のよさをフルに生かしながら特色ある教育活動を推進しながら、集合学習などにより規模を拡大した取組なども一層推進していく必要がある。	4	・小規模校の特認校での児童の確保は、大きな課題の一つである。教職員の資質・指導力の向上、特色を生かした学校づくりなど、校長の経営手腕も大きく影響している。学校・教育委員会・地域が一体となって取り組む必要がある。 ・特認校の良さをフルに生かした、広報活動を推進していく必要がある。 ・複式学級指導には力のある先生が必要と感じた。  ・少人数の良さを認めながら、制度への認知度を上げることが望まれる。 ・小規模校ならではの特色と、地域総ぐるみで支えていただいている環境など、折にふれ広報案内をしていくと良いと思う。 ・小規模校に多くの特認生が通学している。学校に対して魅力があるのではないだろうか。 ・特認校それぞれが、特色ある又魅力ある教育活動を行っていると思う。今後も支援をお願いしたい。
社会教育課	社会教育の基盤づくり	①基盤づくりに向けた関係課との協力度体制の強化 ②社会教育関係職員・指導員の資質向上 ③社会教育リーダー育成 ④社会教育関係団体との連携強化 ⑤広報活動の充実と有効活用	①-1社会教育委員の会の開催 ①-2関係機関との連絡調整の強化並びに研修会等への参加促進 ②-1職員・指導員の資質向上のための研修会等への参加促進 ②-2社会教育事業調整会議の開催 ②-3指導員研修会の開催 ③各種団体指導者研修会の開催 ④-1市子ども会育成連絡協議会との連携 ④-2市PTA連絡協議会との連携 ④-3市校外指導連絡会との連携 ④-4市女性団体連絡会との連携 ④-5市青年団との連携 ④-6その他社会教育関係団体との連携 ⑤-1市報あいらの活用 ⑤-2広報誌やメディアの活用	①社会教育委員の会の開催実績 ②課内事務事業調整会議の実施状況 ③各種リーダー・指導者研修会の開催状況 ④社会教育関係団体の活動状況 ⑤生涯学習情報の活用状況	①委員数15名で年2回開催。研究協議テーマ「家庭教育について～子育て支援や児童虐待防止～」に基づき、委員が各々の立場から見た家庭教育の現状と課題についての意見集約を図った。 ②社会教育関係職員のスキルアップと相互連携強化を図ることを目的に、社会教育事業調整会議(年5回)と社会教育指導員等研修会(年3回)を実施した。 ③県・地区における生涯学習リーダー研修会(少年団体成人指導者、ジュニアリーダー、PTAリーダー、女性教育リーダー、高齢者教育リーダー)に82名が参加して、指導者としての資質向上を図られた。 ④市子ども会育成連絡協議会、市PTA連絡協議会、市校外生活指導連絡会、市女性団体連絡会、市青年団、市生活学校連絡会、市おやじの会等、社会教育関係団体に対して、補助金交付や指導助言等の育成支援を図った。 ⑤市民に対して、生涯学習情報を提供するシステムが構築されていない。	3	・社会教育委員は、本市の社会教育の振興・充実の中核的役割を担っているにも関わらず、その現状(委員数・任務・活動状況等)が市民に認識されていない部分があるのではないかと。委員が主体的に、意欲的に責務を果たす上でも、何らかの方法で市民への広報が必要であると考え。 ・広範囲に及ぶ各種団体への支援育成は「地域力」の要である。各種団体とのより一層の連携強化と推進体制の充実が必要である。  ・合併のなかで、最も各事業、組織の統合が難しいと感じた。 ・成果と課題において、該当年度の実績のみ数字で示しているが、経年変化がみえてこない。まとめ方(評価の整理)について一考願いたい。 ・社会教育委員のメンバーは、広いジャンルの団体から選出されているので、それぞれの立場からの意見交換ができる機会があり、参考になる話を聴くことができる。ただ、市民の認識度は低いと想像する。 ・社会教育委員は、各自の組織に於いてはそれぞれ専門的に活動しているものの、社会教育委員の会に於ける活動は年2回それぞれの立場でテーマを語り、現状の把握をすることや、それを基にした地域での配慮位でしょうか。今後積極的活動～委員がいっしょになって取組めるもの～小さな事でも少しずつ考えていけたらよいと思います。 ・社会教育委員は、各社会教育団体の代表者に委任されているが、その役割や任務を市民に十分周知してもらいたい。

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
社会教育課	青少年教育の充実	①生きる力を持った青少年の育成 ②子ども会活動の充実 ③青少年関係団体との連携強化	①-1あいら未来特使団事業の実施 ①-2AIRAふるさと学寮の実施 ①-3AIRAふるさとチャレンジャーの実施 ①-4ムーミン講座の実施 ①-5心に残る成人式の実施 ①-6その他青少年育成事業の充実 ②-1単位子ども会活動の充実支援 ②-2子ども会育成・指導者等研修会の開催 ②-3子ども会活動参加促進のための支援 ②-4子ども会安全会加入促進のための啓発活動 ③-1ジュニアリーダークラブの育成支援 ③-2地域青少年育成団体との連携強化 ③-3青少年育成市民会議の事業展開 ③-4学校支援事業の充実と支援 ③-5スクール・サポート・ボランティア・コーディネーター(SSVC)事業の導入	①各種青少年育成事業の実施状況 ②単位子ども会における活動状況、育成者研修会の開催状況 ③青少年団体の活動状況、学校支援事業の実施状況、青少年育成市民会議運営状況	①-1あいら未来特使団事業(青少年国内外派遣体験活動事業):日本一に挑戦!めざせ富士山頂・3,776mに臨む、8/6~10(4泊5日)、鹿児島~東京~静岡~愛知~大阪~鹿児島、中・高校生及びサブリーダー25名参加、国会議事堂・東京大学見学・大阪ミステリーツアー ①-2AIRAふるさと学寮(集団長期宿泊学習):6/10~16(6泊7日)、北山野外研修センター、小・中学生27名参加、共同学寮生活・北山ふるさと探検隊・集団バス登下校体験、市新規採用職員研修との合同開催 ①-3AIRAふるさとチャレンジャー(体験型学習):6/2~1/19(8回実施)、小学生39名参加、縄文体験・おばちゃんに学ぶ郷土料理・最先端ロボット技術・ペットボトルロケットづくり ①-4ムーミン講座(学校週休日活用郷土学習):5/26~12/22(16回実施)、小学生・保護者699名参加、絵画・俳句・ふるさとの自然と芸能・竹工作・紙工作、始良退職校長会指導 ①-5成人式:1/13、新成人1,061名のうち692名参加、一部「二十歳の式典」(市企画主催)、二部「新成人のつどい」(実行委員会企画・運営)、新成人誓いのことば、恩師からのメッセージ・記念写真撮影。 ②単位子ども会:146団体/会員3,949人、加入率60.2%。市子連スポーツ大会や地区子ども会大会、スケート教室などを開催した。また、地区育成・指導者研修会で人材育成を図っている。 ③-1ジュニア・リーダークラブどんぐり:市内中高生13人会員、社会教育事業や地域活動へのボランティア参加を図っている。 ③-3青少年育成市民会議では、青少年育成部会・家庭・環境3部会によって、あいさつ運動などの事業を実施した。 ③-4,5学校支援事業では、全市的展開をねらい小中学校における地域人材情報の収集を図った。今後、事業実施に向けてコーディネーターの養成を図る。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の健全育成に対する本市の取り組み、あいら未来特使団事業、ふるさと学寮など意義ある活動が展開されているが、これらに参加した青少年を、学校と連携を図り、本市のリーダーとして活用する方策が必要である。</li> <li>・成人式は、毎年工夫をこらした取り組みがなされているが、実行委員会を主体としながら、アグンデント等を配慮した時の対応等、指導助言が必要である。</li> <li>・子ども会活動を進める上で、スポーツ少年団活動とどう調整していくかが課題となっており、対策が必要である。</li> <li>・今後も諸事業の情報を学校・広報等を通して参加者の拡大を図ってほしい。あいら未来特使団事業の活動が大きく広報あいらに掲載された。子どもの活躍は、学校、地域、しいては始良市の活性化につながってくる。</li> <li>・青少年健全育成に積極的な取り組みがなされている。今後も多角的視点で企画をお願いしたい。</li> <li>・成人式の実行委員の皆さんの運営はすばらしい。式に参加する成人の方々のモラルの向上を願う。</li> <li>・子供会加入率アップを望む。親(家庭)の地域への関わりで左右する。</li> <li>・魅力ある事業が多く実施されている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいら未来特使団」ネーミングがとても良いと感じた。選抜された団員が経験したことを、出身学校や地域に報告してほしい。加音ホールでの発表が素晴らしい。きっかけにもっと多くの同年代の生徒にも聴いてもらいたいと思った。</li> <li>・地域の「子ども会」離れは、年々増加している。魅力ある「子ども会」にするために、自治会の大人達も努力をする必要があると感じた。</li> <li>・校区公民館制度導入後、青少年とのかかわりが増して健全育成に積極的な取り組みができた。</li> <li>・各社会教育団体等は、独自で青少年の健全育成を推進していただけていますが、もう少し、社会教育課で各種団体等の連携強化を図る取り組みがあってもいいのではと考える。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
社会教育課	家庭教育・成人教育の充実	①家庭教育の充実 ②女性教育の充実 ③高齢者教育の充実 ④人権教育の推進	①-1家庭教育推進事業の実施 ①-2公立幼稚園・小学校・中学校における家庭教育学級の開設と支援 ①-3家庭教育リーフレットの活用 ①-4子育てパスポート3年の作成と活用 ①-5親子ふれあい教室の内容充実 ②-1女性学級の開設 ②-2各種女性団体の育成支援 ③-1高齢者学級の開設 ③-2世代間交流事業の充実 ④-1社会教育学級における学習機会の確保 ④-2広報・啓発活動の充実	①家庭教育学級の実施状況 ②女性学級「あやめ学級」の開設状況 ③高齢者学級「ゆずり葉学級」の開設状況 ④人権教育学習機会の実績	①市立幼稚園(5)・小学校(16)・中学校(5)全てにおいて、委託業務による家庭教育学級を開設した。年間委託料75,000円を一律支出しているが、運営方法に相違がみられ、学校間の実績に格差が生じている。 ②女性学級「あやめ学級」:3学級開設、5~2月(年間8回実施)、環境講座・健康講座・史跡めぐり・学校参観等、【教室生】加治木あやめ学級(39名)・始良あやめ学級(13名)・蒲生あやめ学級(46名)・計98名 ③高齢者学級「ゆずり葉学級」:5学級開設、5~2月(年間8回実施)、健康講座・趣味と教養・史跡めぐり・学校参観等、【教室生】加治木ゆずり葉学級(29名)、始良ゆずり葉学級(23名)、重富ゆずり葉学級(18名)、山田ゆずり葉学級(12名)、蒲生ゆずり葉学級(29名)・計111名、※帖佐ゆずり葉学級は募集定員に満たず休講。 ④総務課・企画政策課との連携で、12月に「拉致問題を考えるみんなの集い」を開催し、人権教育の啓発に資するとともに、市全体における取り組み強化を図った。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の講座が、市民の「生涯学習」の推進に大きな役割を果たしており、魅力ある講座の開設や講座終了後、引き続き活動に取り組めるよう、同好会の育成・広報など多方面からの支援が必要である。</li> <li>・学校間で家庭教育学級生の参加者数に差異がある。募集方法や魅力ある活動内容の検討が必要。</li> <li>・家庭教育学級は、異学年保護者の交流の場でもある。魅力ある活動内容で参加者の増員を図ってほしい。</li> <li>・生涯学習の推進に積極的な取り組みがなされている。高齢になっても学び続けることの意義を市民が強く持っている。一層の充実を図ってほしい。</li> <li>・人権教育学習「拉致問題を考えるみんなの集い」が開催され、市民に人権教育の啓発が行われた。</li> <li>・家庭教育学級に父親の参加がほしい。ほとんど母親では？内容的にも広がりが出てくるのではないかなと思う。</li> <li>・女性学級が盛会であることは心強い。</li> <li>・それぞれの団体の交流もいいのではと思う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営にあたって、特に委託支出などはレベル合わせが必要なのではないかな。さらに、全般的なマニュアルの必要性を感じます。</li> <li>・高齢者が自主的に学ぶ環境整備がなされている。</li> <li>・家庭教育学級・女性学級・高齢者学級などから1つ2つ公開講座にして頂いて、学級生以外に門戸の開放は可能でしょうか。毎回は参加できないとか体験受講してみようかなと思う人の為にです。</li> <li>・生涯学習は多くの参加者が受講されている親睦の場になるように、又魅力ある活動の場になるよう望みたい。</li> <li>・それぞれの学校や団体で、特色ある様々な取り組みがなされていると思う。今後も、講師派遣や助言等の支援をお願いいたします。</li> </ul>
	芸術文化活動の振興	①芸術鑑賞の機会の提供による文化意識の高揚 ②芸術文化団体との連携強化	①-1青少年劇場及び芸術鑑賞事業の実施 ①-2始良10号美術展の開催 ①-3市立少年少女合唱団の育成 ①-4文化活動の支援及び発表機会の拡充 ①-5国民文化祭かごしま2015の開催順準備 ②-1市文化協会との連携 ②-2市文化協会各支部への支援 ②-3市文化芸術祭の開催	①青少年劇場、青少年芸術鑑賞事業、始良10号美術展の実施状況、市立少年少女合唱団の活動状況 ②市文化協会の活動状況、市文化芸術祭の開催状況	①-1市町村による青少年劇場[小学生対象]、演目『はじめに見えたもの』、出演:劇団エンゼル 【Ⅰ】錦江小学校:11/5(320名) 【Ⅱ】始良小学校:11/6(680名) 【Ⅲ】重富小学校:11/7(520名) ①-2青少年芸術鑑賞事業[中学生対象]、演目『歌の贈りもの』、出演:鹿児島オペラ協会 【Ⅰ】重富中学校:7/5(700名) 【Ⅱ】加治木中学校:7/6(600名) ①-3第11回始良10号美術展:1/18~2/3、251人/349点出品、特選入賞30点 ①-4市立少年少女合唱団:小中学生26名団員、毎週土曜日合同練習、県少年少女合唱祭出演・市内文化祭出演・定期演奏会開催。 ②市文化協会3支部で、文化祭をはじめとする芸術文化活動を展開している。 【Ⅰ】市文化芸術祭(12/1~2) 【Ⅱ】加治木支部(53団体)・文化祭(10/27~28) 【Ⅲ】始良支部(59団体)・文化祭(11/3~4) 【Ⅳ】蒲生支部(37団体)・文化祭(11/2~3)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の小・中学校に優れた芸術を鑑賞する機会を提供することは有意義なことであり、今後も、こういう機会を設けるとともに、日頃から芸術に親しめる環境づくりに配慮してほしい。</li> <li>・市文化祭及び支部文化祭として、年4回、文化協会の発表の機会があるが、今後、総合した芸術性の高い文化祭を目指してほしい。</li> <li>・優れた芸術文化の鑑賞は、五感に良い影響や刺激を受けたことと思う。</li> <li>・異年齢で学校が違う子供たちが、毎週1回集い合唱の練習をし、1つの曲を仕上げ、いろいろなステージで発表していくことは、子供たちにとって、すばらしい体験活動だと思う。合唱能力も向上している。</li> <li>・市文化協会3支部の文化活動が、積極的に展開されている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼少期のうちから、優れた芸術を鑑賞することはとても良い刺激であり、成長過程にも良い影響を受ける。プロによる演目を間近で鑑賞して、五感も豊かになることだろう。</li> <li>・「少年少女合唱団」は団員は元より、素晴らしい指導者の先生方と、団員を支えるしっかりした保護者の方々と構成されている。団員には歌を上手に歌えるようになることだけではなく、団員同士の和や、先生方への敬意、外部への挨拶など多くのことを学んでほしい。</li> <li>・3支部の文化祭は、それぞれの地域の特性を活かしたものであって会員の文化に対する思いは、自身の生涯を支えるものとなり生涯学習の町としての一翼を担っていると思います。また、地域の文化力は、市全体の活性を支える底力の1つであると思います。今後も文化団体の活動を支援して頂きたいと思います。</li> <li>・子ども達に本物を見せることは、素晴らしいことだと思います。また、各種団体等への支援をお願いします。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
社 会 教 育 課	生涯学習の推進	①生涯学習推進体制の整備	①-1生涯学習推進会議の開催 ①-2市生涯学習推進大会の開催充実 ①-3生涯学習情報の提供	①生涯学習推進大会の開催実績	①-1生涯学習推進会議企画委員会及び生涯学習推進会議を年間各2回開催。 ①-2市生涯学習推進大会:2/24(PM)、加音ホール、【プログラム】記念講演『宇宙からのメッセージ』山崎直子氏(宇宙飛行士)、生涯学習この一年、生涯学習功労表彰、社会教育学級修了証授与、参加者約980名。 ※同日午前、同会場にて青少年地域活動発表などによる「あいらっ子」体験活動発表大会を開催した。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進大会は、スターランドAIRA開所20周年事業と同一会場で行い、講師に女性宇宙飛行士の山崎直子氏を起用したことにより、盛会であった。今後も、対象年齢や他の事業との連携を図り、魅力ある講師の選定など工夫していただきたい。</li> <li>山崎直子さんの講演は市内外から子供から大人まで多くの方が来て下さった。子供たちに夢をもって勉強をし続けてほしいとのメッセージをもらった。</li> <li>功奏したと思います。</li> <li>生涯学習大会での記念講演とスターランドAIRA20周年事業はタイムリーな企画だった。市内外からも高く評価されている。</li> <li>スターランドAIRA開館20周年にあたり、山崎直子氏を記念講演にお招きできたことは、市民にも非常に嬉しく感動した日になった。加音ホールを埋めつくした聴衆は、子どもから高齢者まで年齢層も広く、皆が一言一句聴きもらさないようにと熱心に耳を傾けていた。本市の歴史に残る大会となったと思う。</li> <li>午前中の「あいらっ子」体験活動発表大会は、貴重な情報発信の場で「未来を担うあいらっ子」の活動発表が他の子ども達へもよい刺激となるのではないのでしょうか。多くの児童・生徒が参加出来る手立てはないのでしょうか。</li> </ul>
	社会教育施設の充実と利用促進	①北山野外研修センターの運営 ②スターランドAIRAの運営 ③椋鳩十文学記念館の運営 ④蒲生ふるさと交流館の運営 ⑤龍門陶芸・健康の里〔陶夢ランド〕の運営	①-1活用促進のための広報活動の充実 ①-2関係団体主催事業での利用促進 ①-3学校等との連携強化による利用促進 ②-1天文台運営協議会の開催 ②-2主催天文イベントの開催 ②-3観望会や出張観望会(出前講座)の実施 ②-4各種観望会や工作教室等の開催 ②-5他団体・施設と連携した天文教育の推進 ②-6施設内展示物の充実 ③-1椋鳩十関連資料の収集並びに活用 ③-2椋鳩十文学記念館専門委員会の充実 ③-3全国読書感想文コンクールの充実 ③-4マヤフェスタの内容充実 ③-5施設内展示物の充実 ④-1施設の維持管理と運営充実 ④-2主催事業の開催と利用促進 ⑤-1施設の維持管理と運営充実 ⑤-2主催事業の開催と利用促進	①北山野外研修センターの運営状況 ②スターランドAIRAの運営状況 ③椋鳩十文学記念館の運営状況 ④蒲生ふるさと交流館の運営状況 ⑤龍門陶芸・健康の里〔陶夢ランド〕の運営状況	①北山野外研修センター:学校活動、地域子ども会、ファミリーなど、日帰り・宿泊研修含めて、年間2,067人の利用があった。 ②スターランドAIRA:年間入館者数5,679人。観望会、工作教室など23回の主管事業で利用者増を図り、1,205人の参加があった。また、移動観望会や出前講座は、実施箇所が市内全域に拡大し、20件で1,850人の参加があった。 【開所20周年事業】 ア)宇宙講演会(山崎直子氏) イ)未来絵・未来作文コンクール ウ)20年の軌跡展 エ)太陽望遠鏡購入 ③椋鳩十文学記念館:年間入館者数2,457人、主管事業として全国各地から571点の作品応募があった全国読書感想文コンクールの他、マヤフェスタ、椋鳩十全画展等を催した。 ④蒲生ふるさと交流館:指定管理者制度を導入し、特定非営利活動法人Lab蒲生郷に委託。板橋一步彫刻作品の活用を中心とした独創的かつ理想的な施設運営が図られている。年間利用者数9,852人 ⑤龍門陶芸・健康の里〔陶夢ランド〕:保健体育課所管にあったが、年間利用者数31,860人、特に、屋内競技場と多目的ホールの利用が多い。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>スターランドAIRAの開所20周年事業の宇宙講演会の講師に宇宙飛行士の山崎直子氏を迎えたことは、大きな感銘を与え、スターランドAIRAが大きな脚光をあびるものとなった。今後の入場者・利用者増を期待したい。</li> <li>各施設の利用(活用)促進のための、趣向を凝らした活動や広報など、運営努力がみられる。今後一層の情報提供など工夫してほしい。</li> <li>各教育施設はなくてはならないものばかりである。それぞれの施設の特徴を活用して多くの利用者呼びこんでほしい。</li> <li>椋鳩十読書感想文コンクールには、全国各地からの応募があり、遠く広島から入賞式への参加があった。市内の児童・生徒も頑張って応募、上位に入賞している。</li> <li>北山研修センター利用が昨年より減っているが、利用増への一工夫が望まれる。</li> <li>今さらながら、すばらしい施設を始良市は抱えていると思うことでした。利用促進は使命です。</li> <li>「スターランドAIRA」は足の便の悪い場所にあるので(これは、星を観察する環境なので仕方のないことです)移動観望会や出前講座の企画は、とても有り難い配慮だと思う。地域の高齢者の方々に、是非一度月・太陽・星の観察を体験していただきたい。</li> <li>社会教育施設に自ら足を運ぶ努力もしたいと思います。</li> <li>本市にはすばらしい社会教育施設があるが市民の利用度が少ないのが残念だ。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
社 会 教 育 課	公民館事業の充実	①関係機関との協力体制の強化 ②公民館関係職員及び公民館関係指導員の資質向上 ③公民館講座の充実 ④公民館利用の拡充	①公民館運営審議会の開催 ②職員の資質向上並びに研修会等への参加促進 ③-1始良・加治木・蒲生公民館講座の実施 ③-2校区公民館及び地区公民館における学習活動の支援 ④-1公民館施設利用団体の活動支援 ④-2公民館施設利用の促進	①公民館運営審議会の開催実績 ②職員・指導員の研修会への参加状況 ③始良・加治木・蒲生公民館講座の実績 ④公民館施設の利用状況	①公民館運営審議会:年2回開催 ②研修会:県公民館連絡協議会総会、県公民館設置者セミナー、始良・伊佐地区公民館活動研究大会へ参加した。 ③長期18回講座:27講座、中期9回講座:17講座、短期5回講座:13講座、計57講座開設・受講者895名 ④公民館施設利用者数の推移(H23⇒H24) ・始良公民館:143,807人⇒135,286人 ・山田公民館:4,053人⇒3,849人 ・帖佐公民館:14,220人⇒12,674人 ・松原公民館:31,653人⇒27,369人 ・脇元公民館:14,662人⇒10,267人 ・重富公民館:6,873人⇒6,717人 ・蒲生公民館:29,279人⇒28,241人 ・年間合計数:244,547人⇒224,403人	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力あるプログラムを取り入れた「講座の開設」、市民の要求と、時代の変化に即した講座の開設や、自主グループへの移行支援など配慮してほしい。</li> <li>生涯学習に対する住民のニーズが反映され、多くの参加者が生き活きと活動している。</li> <li>魅力ある講座が多く組まれている。</li> <li>利用者減の原因は何であろうか。</li> <li>公民館利用者数の減少について、さらなる分析で今後にかかしてください。</li> <li>公民館施設利用者数が減少している点について、公民館では多種多様なグループが学習を楽しんでいます、年々メンバーの高齢化に伴い人数が減少している現実です。既存のグループに初心者が参加することは技術的にも難しく、かと言って新規で立ち上げるだけの準備も整わず……。これらに対する支援方法が今後の課題であり、利用者数を増やすことにもつながると思われる。</li> <li>講座の自主グループ移行支援とともに、文化団体への加入を勧めて文化力の向上に繋げてほしいと思います。</li> <li>公民館の利用者数が各地区によって異なっているがもっと多くの市民に使用して頂きたい。</li> </ul>
	公民館施設の充実	①施設環境の整備	①-1各公民館施設・設備の維持管理 ①-2施設内掲示物の充実 ①-3施設及び周辺環境美化活動の充実 ①-4条例公民館施設の整備充実 ①-5始良公民館大規模改修工事の実施	①公民館施設・整備の維持管理状況	①-1始良公民館、蒲生公民館、加治木各校区公民館において、施設の維持保全に必要な修繕等を適宜行い、安全で利用しやすい環境を整えている。 ①-5平成25年度実施の始良公民館大規模改修工事に向けた設計等の事務準備を行った。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>始良公民館の大規模改修工事が、平成25年度着工することが決定したことは、今後の本市の生涯学習の充実や、自治公民館活動の躍進等に寄与するものと期待したい。</li> <li>始良公民館は大規模改修工事に入った。安全で利用しやすい公民館として改善されることを期待する。</li> <li>工事等は進捗を数字で示してほしい。</li> <li>市民の関心を高める意味でも工事の様子や完成した姿など広報してほしい。</li> <li>始良公民館の改修工事完成を、市民が待ち望んでいることと思う。</li> <li>加治木の校区公民館は良く整備されており大変利用しやすい。</li> </ul>
	公民館組織の育成	①公民館組織の支援	①-1加治木校区公民館並びに蒲生地区公民館活動の推進のための支援 ①-2蒲生地区公民館連絡協議会の支援 ①-3加治木校区公民館連絡協議会の支援 ①-4各公民館長及び公民館主事等を対象にした研修会の実施	①各校区・地区公民館活動の支援状況	①地区公民館及び校区公民館に対して、実情に応じた公民館活動補助金を交付している。また、条例公民館や自治公民館活動の活性化を側面から支援している。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の公民館組織は、旧町ごとに組織構成や運営など異なっており、高齢化等とも相まって、組織化・運営が難しくなりつつあるのではないかと考える。行政側の支援体制の強化に取り組んでほしい。</li> <li>公民館活動の活性化を側面から支援している。</li> <li>各校区、地区公民館活動に対して補助金が交付されて活動の活性化に役立っている。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
	指定文化財の保存・活用	①文化財の管理・保存・整備 ②文化財の広報・活用	①-1文化財保護審議会の開催 ①-2文化財の整備及び環境整備の実施 ①-3文化財基本調査の実施 ①-4市誌史料集刊行事業の実施 ②-1史跡・文化財の案内及び説明板の設置 ②-2文化財マップ・パンフレットの作成活用 ②-3史跡めぐりの開催充実 ②-4郷土歴史に関する学習機会の提供 ②-5文化財全般に及ぶ住民への情報発信	①文化財保護審議会の開催実績 ②史跡整備事業と郷土歴史学習事業の実績	①年間4回の文化財保護審議会を開催した他、始良・伊佐地区文化財保護審議会委員等研修会、県文化財研修講座等へ参加した。また、市指定文化財候補3件について諮問し、現状調査と検討を行った。 ②龍門司焼古窯跡改修工事や森山家住宅整備を行った。また、蒲生掛橋坂での歩き・み・ふれる歴史の道ウォーキングには、約70名の参加があった。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市には、多くの充実した文化財があり、地域の活性化に大きく寄与している。今後も、維持・管理をはじめ広報等に取り組んでほしい。</li> <li>市には多くの文化財があるので、今後も管理・保存の整備を行い、歴史学習に活かしてほしい。</li> <li>本市の文化財を学ぶ機会や、歩き・見・ふれる機会を多く持ち市民として大人も小人も我が町を語れる力を身につけたいものです。</li> <li>本市には多くの文化財があり、整備も充分されており、今後も継続的に取り組み情報発信して頂きたい。</li> </ul>
社会教育課	埋蔵文化財の保存・活用	①埋蔵文化財の保護と開発事業との調整	①-1埋蔵文化財発掘調査報告書の編集作成 ①-2遺跡詳細分布調査の実施 ①-3周知の埋蔵文化財包蔵地の管理	①埋蔵文化財発掘調査の実績	①-1圃場整備に係る出土品整理作業及び市頭遺跡発掘報告書を刊行した。 ①-2遺跡詳細分布調査事業で、花園寺跡と龍門司焼古窯跡を調査した他、民間開発に係る緊急調査にも対応した。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財の発掘調査や保存・活用は、地道な事業ともいう一面もあると思うが、今後も、調査・管理など努力に期待したい。</li> <li>地域独自の文化財は、地域活性の種ともなる。維持管理、広報に取り組んでほしい。</li> <li>文化財は地域の活性化になるので、調査、管理に取り組んでほしい。</li> </ul>
	郷土芸能の保存・育成	①郷土民芸・郷土芸能の振興	①-1加治木太鼓踊大会の開催充実 ①-2蒲生太鼓踊り公開の開催充実 ①-3郷土芸能公開事業への支援 ①-4各郷土芸能保存会との連携と活動支援	①郷土芸能公開事業の実績と支援状況	①加治木地区(8/16)及び蒲生地区(8/21)において太鼓踊りを住民へ披露公開することができた。なお、蒲生地区にあつては、春花太鼓踊り保存会が初参加した。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>太鼓おどりなど、大事な文化財であり、高齢化の進む今は、絶えることのないよう伝承・育成にさらなる支援をお願いしたい。</li> <li>郷土芸能の伝承、育成にはさらなる支援が必要である。</li> <li>市報あいらに、それぞれの地区の郷土芸能の披露公開が大きく掲載されていた。小学生、中学生、高校生の参加もあり継承されていくことを希望する。</li> <li>文化財の伝承育成に、支援と郷土民が皆知り、味わえる工夫をお願いする。</li> <li>さらなる交流が望まれる。地域間での競争や連携があつて、さらに盛り上がると思います。</li> <li>5Pでも記載しましたが、伝統芸能の後継者育成と伝承への支援を切望する。</li> <li>郷土芸能の保存に対し支援頂き有難い。地域活性化のために支援を続けてほしい。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
社会教育課	施設の充実	①歴史民俗資料館の運営 ②加治木郷土館の運営 ③吉原事務所の運営	①-1歴史民俗資料館・加治木郷土館運営協議会の内容充実 ①-2常設展の充実と特別展の開催 ①-3学校機関との連携強化による出張指導の推進 ①-4歴史ボランティアガイドの育成 ①-5歴史教育普及活動の推進 ①-6講演会・歴史講座・体験学習等の開催 ②-1収蔵品等の調査・研究促進 ②-2企画展や郷土館講座等の開催 ②-3古文書等の修復・保存及び活用 ②-4学校機関における郷土学習への支援 ③-1出土品の保存管理体制の充実 ③-2埋蔵文化財発掘調査報告書の管理及び作成	①歴史民俗資料館の運営状況 ②加治木郷土館の運営状況 ③吉原事務所の運営状況	①ふるさと講演会(10月)を含む「ふるさと歴史講座」では、加治木・蒲生地区からの参加者もあり119名が年間を通じた歴史学習を重ねた。また、古典講読会、古文書研究会(上級・中級)を各年10回開設した他、夏休みには、体験学習会(帖佐人形作り・印鑑作り・まが玉作り・トンボ玉作り)を実施し79名の参加があった。春秋の特別展は「修験者・米良家の宝物展示」「よみがえる古代の始良」を開催した。また、「始良市誌史料集一」を刊行した。年間入場者数:2,414人 ②郷土館講座を2回、ミニ企画展を1回開催した。年間入場者数:2,552人 ③圃場整備事業に係る市頭遺跡の報告書作成作業と、遺跡詳細分布調査事業の出土品整理作業を実施した。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの施設で、興味深い事業が推進されているが、残念ながら市民に周知されていない傾向にあるのではないか。今後、一層の広報・啓発活動に取り組んでほしい。</li> <li>施設を中心に、歴史民俗資料の整理編さんがなされている。歴史ボランティアガイドの育成は、地域歴史の認識を高める役目を担っている。</li> <li>楽しめる企画を今後も展開してほしい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>すばらしい事業がなされているが、市民への周知が今一つ。広報、啓発に取り組んではいないが、市民の参加が少ないようである。</li> </ul>
図書館	図書館のサービス業務と読書活動の充実	図書館サービス業務の充実	①サービス業務の迅速化・効率化 ②貸出し利用の充実 ③広報活動の強化・充実 ④運営状況の検討評価 ⑤図書館協議会の開催	①サービス業務改善と貸出し利用の充実 ②始良市報等の広報活動内容 ③図書館協議会の開催数と図書館運営への意見反映度	①貸出し状況 一般書 194,539冊、児童書 131,704冊 雑誌 28,493冊、AV資料 18,701冊 ②始良市報等の広報活動内容 市報への掲載 26回 ③図書館協議会:年2回 専門職の採用や研修会への参加など組織の充実が図られた。夜のおはなし会など、利用者の声を取り入れたイベントも開催された。地域の生涯学習の拠点として、利用者のニーズに応えた資料の収集や提供に努めたい。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の業務の改善、貸し出し利用の充実等の努力により、図書館が、便利でより親しみやすい身近なものとなっている。今後も改善・充実に努めてほしい。</li> <li>地域の生涯学習の拠点として、利用者のニーズに応えたサービスが提供されている。</li> <li>市報あいらによる広報が積極的になされている。</li> <li>広報活動充実で貸出しも増えている。</li> <li>年2回の協議会での意見は、大いに反映させてほしい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>市報による広報活動が、とても充実している。</li> <li>移動図書館バスの運行により、図書館へ足を運べなかった市民にも読書の機会が増えたことは何よりです。</li> <li>気候のよい時期に星空の下で夜のおはなし会や映画会なども(安全が保たれるならば)印象に残ることと思います。</li> <li>図書館のサービス事業活動の推進により多くの貸出しがなされている。すばらしい。</li> </ul>
図書館	図書館のサービス業務と読書活動の充実	読書活動の充実	①子ども読書活動の推進 ②予約・リクエストの推進 ③関係機関・団体等との連携 ④図書館ボランティア育成	①家庭・地域・学校との連携 ②予約・リクエストに対する実績 ③関係機関等との情報交換等実績 ④図書館ボランティア員数と役割	①子ども読書活動 お話し会 年:51回、とくもりお話し会 年:3回、ブックスタート 年:36回 ②予約・リクエストの推進 予約・リクエスト 10,974件 ③市内小・中学校とも連携し、読書活動の一層の推進を図りたい。 出前読み聞かせ 年:22回 見学・研修等受入 年:38件 ④装丁ボランティア(花水木 11人) 読み聞かせグループ(あいあい 16人)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもから大人にいたる市民の読書推進活動のため、独創的・積極的な事業が展開されており、読書活動の中核施設として機能している。今後の、一層の努力を期待したい。</li> <li>図書館だより、市報あいら等で情報提供がなされている。</li> <li>精力的に読書活動の充実が図られている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの依頼があって出かけるという「出前読み聞かせ」は大人にも聞いてもらいたいと思った。語りかけるような声で本を読んでもらうと、何とも言えない心穏やかな気持ちになれる。この感覚を、保護者(特に父親)に体感してもらいたい。</li> <li>市民の図書館として大いに活用されていると思います。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
図書館	図書館のサービス業務と読書活動の充実	視聴覚ライブラリーの充実	①視聴覚ライブラリーの利用促進	①視聴覚ライブラリーの利用者実績	視聴覚ライブラリーの貸出 ・機材 136団体 利用者 5,351人 ・ビデオ 98本 利用者 3,822人 県視聴覚連盟が所有する視聴覚資料なども教育関係者や市民団体が利用できるよう、特設コーナーを設置した。	4	・視聴覚ライブラリーの利用は、前年に比較して若干減少しているが、特設コーナーの設置ほか、広報等についても工夫してほしい。 ・機材、教材の活用に取り組んでほしい。 ・昨年通り。
	始良市立図書館ネットワークの充実	図書館システムの有効活用	①始良市図書館の機能の充実 ②始良市内図書館、図書室間の図書配送システムの充実	①各図書館施設とのシステム共有化 ②市内各図書館及び図書室の配送状況	①貸出・返却などが、どこの図書館・図書室からでもできるほか、インターネットを通じて図書資料の検索や予約ができるようになり、住民からのアプローチも可能になった。 ②専属の配送係員を配置し、平日の午前中に各施設に図書資料を配送している。	4	・各図書館施設とのシステム共有化で、図書館の利用サービスが便利になるなど充実してきた。今後の、さらなる利用促進に期待したい。 ・図書館システムの統一により、貸出返却など便利なサービスが提供できるようになった。 ・大変便利になりました。  ・市にとどまらず県、国との情報サービスの導入を検討すれば、なお良いと思います。 ・各図書館とシステム共有がなされ、市民にとって大変便利になった。便利になった陰には、専属の配送係員の配置があった訳ですね。本当にお世話になります！ ・貸出し、返却がシステム化され利用サービスがうまく機能されている。 ・情報化社会が進む時代で、市民ニーズに答えることは大変ではあるが、システムの統一などサービスの向上に努めている。
保健体育課	生涯スポーツの推進	生涯スポーツの充実	健やかスポーツライフ、地域の恒例事業、ニュースポーツ普及	各大会の参加者実績	スポーツ活動を通じ、市民の健康増進や親睦を深めた。 ①混成ナイターバレーボール大会(409名) ②壮年ナイターソフトボール大会(457名) ③スポーツフェスティバル(858名) ④義弘公奉賛武道大会(弓道)(430名) ⑤義弘公奉賛武道大会(剣道)(842名) ⑥校区対抗スポーツ大会(184名) ⑦加治木駅伝競走大会(945名) ⑧始良ウォーキングフェスタ(223名)	4	・各種イベントが開催されているが、昨年より参加者の減少が見受けられる。イベントは、広報が大きいウェイトを占める部分もあるので、広報の工夫を図ってほしい。また、健康増進・体力づくりのほか高齢者交流のイベント等を考慮するなど、今後の企画に期待したい。 ・各種大会が実施され、多くの参加者があり生涯スポーツの推進に努めている。参加者を増やす為の広報も必要。 ・健康増進・親睦が目的であるはずの、生涯スポーツ大会の一部に勝利主義が感じられる。  ・減少したイベントは、市民の参加しやすい時期等を再考してほしい。 ・各種大会に多くの市民が参加され、生涯スポーツを実践している姿がある。スポーツ音痴の自分には、とても羨ましく思えた。 ・市民の健康増進や親睦のため各種大会等が開催されているが市民の多くの参加ができるようにしてもらいたい。
		指導体制の整備・充実	スポーツ推進委員の資質向上と充実	指導者研修と教育委員会との連携	①年6回の定例スポーツ推進委員会を開催。 ②地区・県・九州地区スポーツ推進委員研究大会へ参加することにより指導体制、資質の向上が図られた。また、各種大会の運営、指導を行い、生涯スポーツの推進を図った。	4	・スポーツ推進委員は他のスポーツ指導員とは異なっており、市民の健康・体力づくりの企画等の役割を果たすものであることから、研修等による資質の向上を期待したい。 ・各研究大会への積極的参加により、推進委員の資質向上が図られている。  ・若手スポーツ推進員の育成も期待します。市民の健康保持増進の為にラジオ体操を活用して、本市独自の体操のお兄さん・お姉さんの指導者に、幼・保・小・中・一般と楽しく正しく指導してもらうのはいかがでしょうか。ゆるキャラクスマンちゃんも加わって。 ・スポーツ推進員による生涯スポーツ、軽スポーツの普及に推進してもらいたい。

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
保健 体育 課	競技スポーツの推進	スポーツ団体等の育成・充実・スポーツ施設設備の整備・促進	体育協会・始良スポーツクラブ・スポーツ少年団との連携・社会体育施設の充実	各協会への支援状況 指定管理者との連携	①体育協会等へ補助金を交付し、組織力の強化、競技力の向上、少年団活動等の育成を図った。 ②指定管理者による社会体育施設の維持管理については、民間のノウハウを活用した運営が図られた。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育協会は、合併により全市的組織として機能しているが、今後さらに、組織の充実強化を図り、本市スポーツの振興・競技力の向上に取り組んでいただくことを期待したい。</li> <li>・施設環境整備等には施設利用者の声を聞き、細かい配慮をお願いします。</li> <li>・「スポーツ少年団＝小学生」と思っている人が多いのでは。それが、リーダーが育たない原因ではないだろうか。部活と並び中学生になっても続けられる選択肢の一つであると思う。</li> <li>・指定管理者の力量によって整備状況に差がでることがある。こまめな指導をお願いしたい。</li> <li>・スポーツ少年団は健全育成が目的であるが今やチャンピオンスポーツになっている。行政の指導通り活動してほしい。</li> </ul>
	学校体育の充実	児童生徒の体力づくり	教科体育・教科外体育指導状況	教科体育・教科外体育指導内容と全国体力・運動能力調査との比較	①全ての小・中学校で新体力テストを実施し、全体的に昨年同様「握力」「長座体前屈」「上体起こし」の種目に課題がある。 ②研究公開を3校で実施し、運動の特性や体力を図る授業について研修を深めることができた。 ③陸上記録会において、新記録15個、タイ記録が6個誕生した。 ④「チャレンジかごしま」において、始良・伊佐地区で唯一学校賞を授賞した。 ⑤体力向上リーフレットを作成しその活用を図っている。 ⑥スポーツ選手活用体力事業(国)において、元オリンピック選手や元日本代表選手が学校を訪問し体力向上を図った。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上とともに、体力向上に対する学校や家庭の意識が高まってきていることは、喜ばしいことである。学校でも、学習指導法や目標に向かってチャレンジする方を講じることなど、努力しており期待したい。</li> <li>・体力向上に向けての取り組みは、家庭と共有していく必要がある。</li> <li>・体力作りが精神力強化にも繋がっている。児童生徒に適応した具体的な取組が必要である。</li> <li>・児童生徒の気力・体力づくりに元オリンピック選手や、日本代表選手による指導が行なわれた。さらにやる気を引き出してほしい。</li> <li>・課題のある体力テスト種目の原因は何であろうか。</li> <li>・体力向上を、家庭と学校が協力して推進していくのが理想だと思う。</li> <li>・陸上記録会で、新記録が15個も誕生したことに感激した。</li> <li>・アレルギー性の疾病が増加の一途を辿っている現状を踏まえ、4～5月頃の大気汚染の時や、降灰がある時等は、屋外活動・運動の是非を判断されたい。</li> <li>・色々な取り組みがなされ、児童・生徒の体力向上に繋がっていると思う。</li> <li>・学校体育等で、スポーツの重要性を分からせることにより、今後、生涯スポーツへ繋がっていくのではないかと。</li> </ul>
	学校保健の充実	健康診断・学校安全・組織の充実	健康診断結果とスクールガードリーダー配置事業	健康診断・スクールガードリーダー配置事業実績	①県警本部、県JAと連携し、スタントマンによる交通事故再現を中心とした、自転車交通安全教室を開催した。(約1,000人)児童生徒の交通事故件数が減った。 ②養護教諭部会を一本化して研修を深めることができた。 ③全国歯科医師会から学校賞を授賞した。 ④通学路合同点検を実施し(93箇所)改善が計画的に進んでいる。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに、自分の命は自分で守るという意識を持たせるためにも、保護者を含めた健康・安全への意識づくりが重要である。</li> <li>・本市の児童・生徒の通学路における安全については、スクールガードリーダーを中心とした地域の方々の協力が大きい。今後、さらに多くの方々の協力に期待したい。</li> <li>・中学生の自転車マナーは良い。今後も交通安全教室など開催し安全教育に取り組んでほしい。</li> <li>・自転車運転の徹底指導をお願いしたい。</li> <li>・交通事故件数0を目指す！</li> <li>・減少したことは大いに評価できる。</li> <li>・スクールガードリーダーの役割は大きいと評価しています。</li> <li>・交通量の多い地区で登下校の確保は、重要な指導項目だと思われます。学校では処理しきれない通学路の改善などにも積極的に推進して欲しい。</li> <li>・登下校時に、スクールガードリーダーの皆さんが生徒の安全を支えてくださっているのがとても有り難い。</li> <li>・始良小の歯科表彰(学校賞)は、大変喜ばしいと思う。</li> <li>・2才児でも危険を理解する能力を持っています。学校等で指導されている内容を更に低年齢層に下げて危険に対する自衛力の育成を図って下さい。</li> <li>・各学校でもスクールゾーン対策委員で子供達の安全に対する協議がなされて、安心安全な登下校が出来るように改善策がなされている。</li> </ul>

	重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	平成24年度の成果と課題	評価	評価のコメント
保健 体育 課	学校給食の充実	給食内容の充実	安心・安全な学校給食	安心・安全な学校給食運営	栄養教諭が中心となって「食物アレルギー対応も手引き」を作成し、全小・中学校で統一した取り組みを始めた。食中毒発生は0件であった。 栄養バランスのとれた献立作成のため、栄養教諭協議会において指導・助言を行った。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、単独校調理方式と共同調理場方式の両方式で調理を行っているが、安心・安全で栄養等を考慮した学校給食は、栄養教諭の努力によるところが大きい。今後も、栄養教諭の努力による学校給食の充実に期待したい。</li> <li>食物アレルギーへの統一した対応、取り組みがなされている。</li> <li>「アレルギー食」いろいろな人を経て口に入るの、その連絡伝達には経験と知識が必要である。</li> <li>給食はとてもおいしいと感じている。</li> </ul>
		食に関する指導の推進	児童・生徒への指導	食に関する学校の指導計画の策定状況	食に関する指導計画策定状況 (小中学校100%策定済み) 栄養教諭の在籍しない学校には兼務発令を行い食に関する指導を行った。地場産物の活用を推進し、生産者や生産地を紹介し、食育の推進を図った。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食に地場産物を利用することは、品質・品揃えなど苦勞する面も多いと思うが、地元の身近な生産者の努力を知る機会にもなるので、できるものから続けていってほしい。</li> <li>給食の時間も教育の場であるとの意識を先生方にもってほしい。</li> <li>生産者と生徒との交流の場をもうけ、生産者の努力を知り、感謝していただくことで残食も減るのではないかと思う。</li> <li>給食に関する掲示物等の場所は検討の余地がある。せっかくな情報の子供達の目にふれていないのではと思われる学校もある。</li> <li>栄養教諭が主体的に各学校で活動できる体制を継続してください。</li> <li>生産者と交流する機会を設けることで、生産者や産物に対する感謝の気持ちが更に強まると思う。</li> <li>食育を徹底するとともに、世界に目を向け食に困窮する国がある・子どもたちいることを学ぶ機会も設けて下さい。</li> <li>これから大人になっていく子ども達に、食育は非常に大切なことだと思う。健康増進の面からも、今後も進めてもらいたい。</li> </ul>
		衛生管理体制の整備充実	危機管理意識の高揚	調理従事員の意識高揚	学校給食関係者衛生管理研修会を開催した。学校給食衛生管理基準に基づいた施設・器具・食材等の衛生検査や調理従事員の健康管理等の意識高揚に努めた。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食で、食中毒等の事故はあってはならない。本市で事故が発生していないことは、調理従事者個々の意識・努力によるものであり、今後も事故を起こさないための防止策を徹底してほしい。</li> <li>衛生管理や危機意識の高揚に努めてほしい。</li> <li>「これくらいはいいだろう」と自己判断で従事できないようなチェック体制を充実させてほしい。</li> </ul>
		学校給食の充実	施設の充実	施設の機能化	組織の活動内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食運営委員会の開催(センター年3回) 計画的に給食運営委員会を開催し、給食費の適正な収納・支出状況について協議し、健全な給食運営を行っている。</li> <li>栄養教諭等協議課会の開催(毎月1回) 栄養教諭が連携を図り、献立検討や食に関する指導について協議し、食育の推進を図った。</li> <li>小学校給食室別棟建設事業 (基本設計、地質調査、厨房設備の選定)</li> <li>学校給食在り方検討委員会の開催(3回) 学校給食が安全・安心で質の高い給食を安定的に提供するとともに、効果的で効率の高い事業運営を円滑に行うことを目的に開催。(委員15名)</li> </ul>	4